

# 中岡遺跡

宮崎市文化財調査報告書

昭和62年3月

宮崎市教育委員会

## 正誤表

頁	行	誤	正
例言	5	3. 調査における実測及び測量は…	(消去)
々	6	3. 調査における実測量は、………	3. 調査における実測及び測量は、…
々	13	9. 土器一覧表の番号は、土器挿図…	8. 土器一覧表の番号は、土器挿図…
々	14	10. 図版の土器については、………	9. 図版の土器については、………
々	15	11. 本書挿図中の方位は…………	10. 本書挿図中の方位は…………
々	16	12. 中岡遺跡及び出土土器…………	11. 中岡遺跡及び出土土器…………
々	19	13. 本書における出土遺物は、………	12. 本書における出土遺物は、………
		総目次	本文目次
		第16図 D-9・D-10・C-11…………	第16図 D-9・D-10・D-11…………
図版目次	4	②発掘調査作業風景	②発掘調査作業風景
々	6	③発掘調査作業風景	③発掘調査作業風景
々	17~30	(図版6以下のページ数の47~60)	(46から59までに変更)
々	22	図版11 C-6区出土土器51~64	図版11 C-6区出土土器52~64
々	25	図版14 C-7-0-7区出土土器84~96	図版14 C-7-D-7区出土土器85~96
2	2	………南斜面にやや平坦な………	………南斜面にやや平坦な………
4	23	……分割され、その後は莊園制……	……分割され、その後は莊園制……
8	5	……椭円形に掘り込まれた………	……椭円形に掘り込まれた………
8	13	cmの円形状焼成土壙も…………	cmの円形状焼成土坑も…………
8	31	………大まかに形成分類………	………大まかに形式分類………
8	36	~終末期に属する…………	~終末期に属する…………
37		A類	第19図 A類
38		B類 (a・b・c)・C類	第20図 B類 (a・b・c)・C類
39		D類 (a・b・c)・E類	第21図 D類 (a・b・c)・E類
40		F類・G類	第22図 F類・G類
54	タイトル	図版14 C-7-D-7区出土土器84~96	図版14 C-7-D-7区出土土器85~96

## 序

中岡遺跡は、宮崎市街地の南部に近接する北川内町大字中岡にあり、昭和57年末から翌年2月にかけての調査によって弥生時代終末期の土器焼成跡として知られるところとなりました。

このような土器製作焼成遺跡の発見は全国的にもまれなことで、中岡遺跡そのものはもとより、出土土器についても今後南九州における弥生時代終末期の土器編年の中的な資料として貴重なものであると思っております。

発掘調査の成果につきましては、昭和58年12月の「宮崎の古代を考えるシンポジウムのレジュメ」ならびに昭和59年3月の「宮崎市遺跡等詳細分布調査報告」の中で、その概要の一部を発表してきたところであります。今回まとまった調査報告書を刊行する運びとなりました。

この報告書が諸地域における調査研究の一助となり、埋蔵文化財保護に寄与できれば幸いです。

最後に、発掘調査にあたり種々ご指導ご援助をいただきました関係各位、ならびに発掘作業にたずさわっていただいた方々に感謝申し上げます。

昭和62年3月

宮崎市教育委員会

教育長 柚木崎 敏

## 例　　言

1. 本書は、宮崎市教育委員会が昭和57年11月8日から58年2月16日まで実施した、中岡遺跡の緊急発掘調査報告書である。
2. 発掘調査には、野間重孝、緒方博文があたった。
3. 調査における実測及び測量は、野間重孝、緒方博文があたった。
3. 調査における実測量は、野間重孝、緒方博文があたり、写真撮影は野間重孝が行った。
4. 遺物整理は、出土遺物の多量なことから58年から61年に及び、主に西本州司、橋本博文が行い、伊東但、荒武麗子がこれを補った。
5. 遺物の実測、トレース、写真撮影は荒武麗子が主となって行った。
6. 本書の執筆は、野間重孝、荒武麗子が行い、文責は本文目次に記した。
7. 本書の編集は、荒武麗子が主となり行った。
9. 土器一覧表の番号は、土器挿図及び図版と合致している。
10. 図版の土器については、その大きさの統一を欠いている。
11. 本書挿図中の方位はすべて磁北である。
12. 中岡遺跡及び出土土器については、過去、「宮崎市遺跡等詳細分布調査報告書」I (1984) 及び「宮崎の古代を考えるシンポジウム」レジメ (1983) 等に掲載している。
13. 本書における出土遺物は、宮崎市教育委員会が保管している。

## 総 目 次

I. 発掘調査について .....	<野間 重孝>.....	1
1. 調査に至る経過と調査の組織.....	1	
2. 調査の概要.....	2	
II. 遺跡について .....	<野間 重孝>.....	4
1. 遺跡の立地.....	4	
2. 周辺の歴史的環境.....	4	
III. 遺構と遺物（土器） .....	8	
1. 遺構について.....	<野間 重孝>.....	8
2. 土器について.....	<荒武 麗子>.....	8
3. 絵画文・線刻文のある土器.....	<荒武 麗子>.....	37

## 挿 図 目 次

第 1 図	中岡遺跡とその周辺遺跡 .....	3
第 2 図	中岡遺跡の位置 ( $\frac{1}{5000}$ ) .....	5
第 3 図	中岡遺跡全体図 .....	6
第 4 図	焼成土坑実測図 .....	7
第 5 図	焼成土坑内出土土器実測図 1~11 ( $\frac{1}{4}$ ) .....	9
第 6 図	D-5・C-5区（焼成土坑上面）出土土器実測図12~20 ( $\frac{1}{4}$ ) .....	10
第 7 図	C-4・D-5区出土土器実測図21~31 ( $\frac{1}{4}$ ) .....	11
第 8 図	C-4・D-5・D-6区出土土器実測図32~41 ( $\frac{1}{4}$ ) .....	12
第 9 図	C-6区出土土器実測図42~50 ( $\frac{1}{4}$ ) .....	13
第 10 図	C-6区出土土器実測図51~64 ( $\frac{1}{4}$ ) .....	14
第 11 図	C-7区出土土器実測図65~73 ( $\frac{1}{4}$ ) .....	15
第 12 図	C-7区出土土器実測図74~83 ( $\frac{1}{4}$ ) .....	16

第 13 図	C—7・D—7区出土土器実測図84～96 ( $\frac{1}{4}$ ) .....	17
第 14 図	D—7・E—7・C—8・C—9区出土土器実測図97～107 ( $\frac{1}{4}$ ) .....	18
第 15 図	D—8・D—9区出土土器実測図108～118 ( $\frac{1}{4}$ ) .....	19
第 16 図	D—9・D—10・C—11・C—12区出土土器実測図119～128 ( $\frac{1}{4}$ ) .....	20
第 17 図	C—11・D—12・D—13区出土土器実測図129～139 ( $\frac{1}{4}$ ) .....	21
第 18 図	E—11・E—12・E—13・F—11区出土土器実測図140～147 ( $\frac{1}{4}$ ) .....	22
第 19 図	A 類 .....	37
第 20 図	B 類 (a・b・c)・C 類 .....	38
第 21 図	D 類 (a・b・c)・E 類 .....	39
第 22 図	F 類・G 類 .....	40

### 表 目 次

出土土器一覧表 .....	23～36
---------------	-------

## 図版目次

図版1	41
① 遺跡の全景	
② 発掘調査作業風景	
図版2	42
③ 発掘調査作業風景	
④ 焼成土坑上面土器出土状態	
図版3	43
⑤ 焼成土坑上面土器出土状態（北から）	
⑥ 焼成土坑上面土器出土状態（東から）	
図版4	44
⑦ 焼成土坑上面土器出土状態	
⑧ "	
図版5	45
⑨ 焼成土坑内出土土器出土状態	
⑩ 焼成土坑掘り上げ後の状況	
図版6 焼成土坑内出土土器1~11	47
図版7 D-4・D-5・C-5区出土土器12~20	48
図版8 C-4・D-5区出土土器21~31	49
図版9 C-4・D-5・D-6区出土土器32~41	50
図版10 C-6区出土土器42~50	51
図版11 C-6区出土土器51~64	52
図版12 C-7区出土土器65~73	53
図版13 C-7区出土土器74~83	54
図版14 C-7・D-7区出土土器84~96	55
図版15 D-7・E-7・C-8・C-9区出土土器97~107	56
図版16 D-8・D-9区出土土器108~118	57
図版17 D-9・D-10・D-11・C-12区出土土器119~128	58
図版18 C-11・D-12・D-13区出土土器129~139	59
図版19 E-11・E-12・E-13・F-11区出土土器140~147	60



## I 発掘調査について

### 1. 調査に至る経過と調査の組織

昭和57年(1982)10月20日に、土地占有者[ ]より畠地造成中、1個の壺を発見したとのことで遺跡発見届けが提出された。宮崎市教育委員会は早速、現地調査を行い掘削土壁面に多量の土器片の含有を確認することができた。そこで畠地造成を1時中断してもらうことにして、緊急発掘調査を実施することになった。

#### 調査体制

所在地 宮崎市北川内町字中岡4882番地

調査期間 昭和57年11月8日～昭和58年2月16日

調査主体 宮崎市教育委員会

調査担当者 野間 重孝(社会教育主事)

緒方 博文(社会教育指導員・現日向市教育委員会)

調査補助員 [ ]  
[ ]

調査協力 [ ]

茂山 譲(宮崎県総合博物館)

養方 政機(現西都市教育委員会)

高橋加奈子

事務局 宮崎市教育委員会

教育長 黒木 定弥

教育次長 森木 雄宣

社会教育課 課長 山田 義夫

〃 补佐 杉田三千夫

〃 主事 菊地 道

〃 主事 年吉 孝一

## 2. 調査の概要

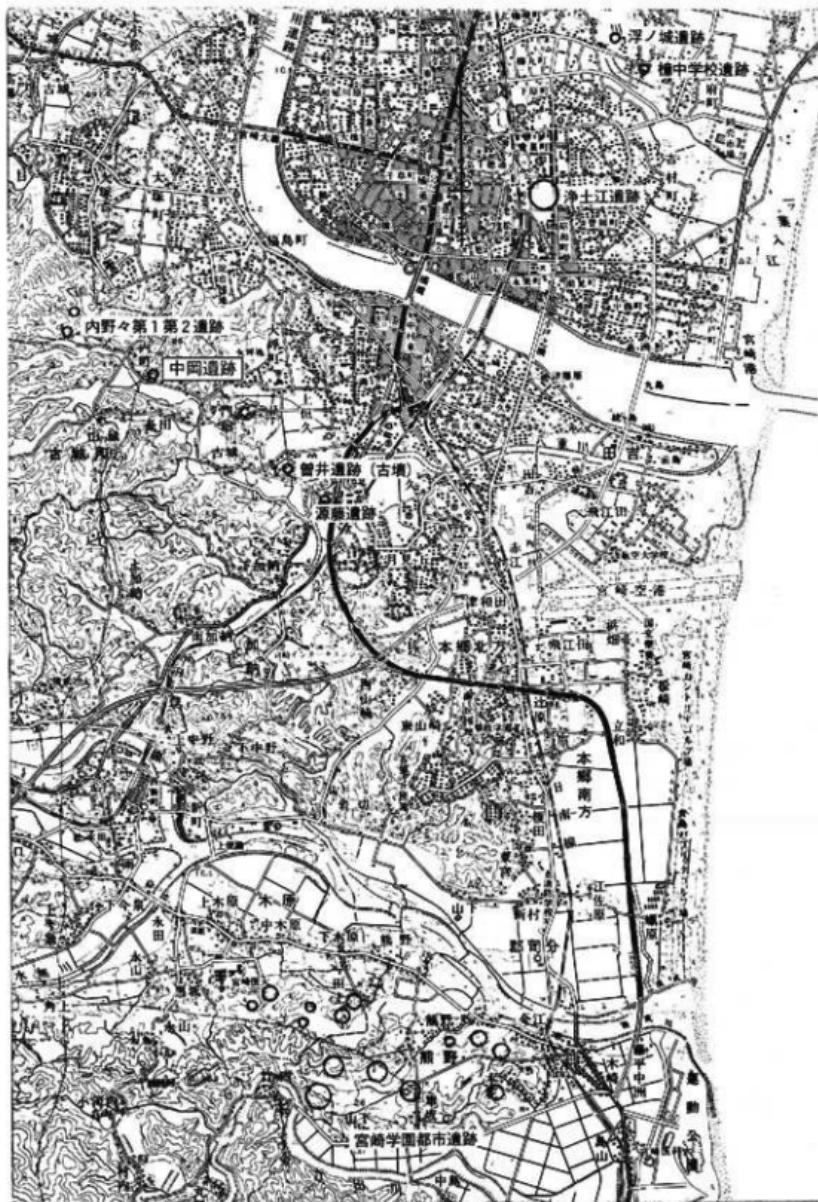
遺跡は、東西に延びる丘陵の南斜面にやや平坦な丘地があり、その丘地に立地していた。

過去、みかん園として利用されていたが、牧草地に転換するため厚さ約2mの掘削造成が行なわれ、丘地の人半はなくなり基盤となるシラス層が露出している状況となっていたが北側丘陵裾部から広がる1部は残存していた。こうしたことから遺跡の大半は消滅しているかに見受けられたが底地部分は残存しており、幸い1部を除いて遺跡の主体部は残されていた。

発掘調査は当初10日間の予定で57年11月8日から着手することとなった。調査が進むにしたがって遺物の出土も多くなり遺跡の主体部は残っていることを確認し、数回の発掘調査期日を延長して、翌年の2月にかかる発掘調査期間となった。

遺跡における土器包含状況は幅約6m、長さ約20mの細長い範囲内に集中し、北傾斜及び西傾斜面に堆積した状態にあり、高位置に当る12・13区では3層の包含状況が見受けられ、低位置となる5～8区では7層にわたる包含層を検出している。特に9～11区は、東西、南北からの傾斜が強いところであり、土器堆積にもかなり乱れを生じる状況を呈していた。遺跡内では北側傾斜面に土器溜めと思われる厚い土器の集積や幅約80cm、長さ約1.2m、深さ約80cmの長方形形状の掘り込み（井戸跡）や平坦面になって直径約2m、高さ約1mの粘土山が検出されている。平坦面ではブロック状に焼土面を検出することができた。

一方、これらに続く西側低位置には、西方面からの自然傾斜面を切り取って壁をつくり東側平坦面では1部粘土による土壁を作った幅約1.5m、長さ約6m、深さ約50cmの長方形形状の焼土坑が検出され、その北半において重複する形で直径約1.5m、深さ約50cmの円形焼成土坑が検出されている。以上のような遺構及び多量の土器群をもつことから、この遺跡は土器製作焼成跡の性格が強く窺われるものであった。



第1図 中岡遺跡とその周辺遺跡

## II 遺跡について

### 1. 遺跡の立地

宮崎市街地の南、大淀川で分断された南部にあって標高30~100m内外の比較的起伏の強い丘陵地帯が展開している。丘陵間には盆地状の水田地帯が広がり、大淀川河口に注ぐ八重川の上流において古城川となって入り込んでいる。丘陵地は、洪積世の段丘れき層やシラス及びローム層から成り、低地は下層において厚い粘土層をもつ水田面を形成している。

遺跡は、北川内町字中岡にあって、標高30mほどの山陵部分の西、東方向と山陵斜面となり南北方向にわずかに開かれたすり鉢状のくぼ地に営まれている。遺跡を取り巻く斜面は基盤のシラス層によって形成されており、現在ではこれらは垂直状に削り取られシラス層面を露出し厚いところで10mを測る。

遺跡の立地するくぼ地の土層は、I層に黒色表土層、II層に淡褐色土層、III層に灰褐色土層、IV層に黒褐色土層、V層は黒褐色粘質土層となり、土器群の包含層となっている。VI層に黄褐色粘質土層があり、焼土坑等の遺構はこの層を切り込んでいる。VII層は黄褐色土層でバサバサした感じとなり、VIII層になってシラス層となり、厚く堆積している。

### 2. 周辺の歴史的環境

北川内町を含む古城地区は、前述したように起伏の強い山陵に囲まれた地域であり、丘陵平坦面の及び裾部において遺跡の分布が見受けられる。特に弥生時代後期から終末期に至ってその遺跡数を増している。丘陵上では内野々遺跡（56年調査）。低地では下古城遺跡（弥生時代後期から終末にかかる土器群が古城川河川改修工事によって発見）等16遺跡が確認されている。特に中岡遺跡に類似する遺跡が分布することが知られる。

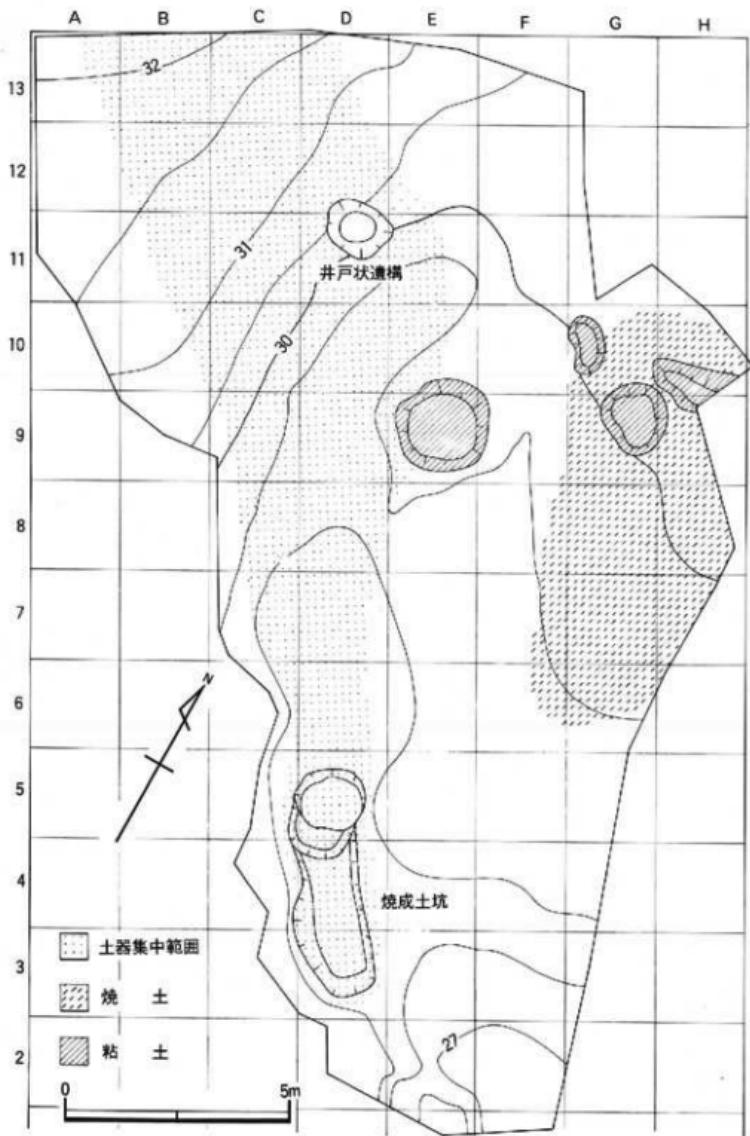
中世になって、この地域は建久8年の「日向国岡田帳」によると大淀川南部に開発された八条女院領岡富荘に包含され、大淀川下流南岸に開かれた「一円莊、太田百町」の西域に位置している。南北朝時代の末期になると岡富荘は上持氏と伊東氏によって分割され、その後は莊制の崩壊となってくる。伊東氏は岡富荘を足がかりとして宮崎平野中央部の支配権を強化していく。室町時代から戦国時代にかけては伊東氏と島津氏の棚柵争いの渦中となる。古城地域は地形的なものと相まって、曾井城を中心とする宮崎平野中央部の要害としての役割を果たすことになり、天文年間（1532~1555年）に古城（古城町）、山城（北川内町山城）、本城（古城町時雨）の中世山城が築かれ、その城跡をとどめている。江戸時代に入ると曾井地区は既肥藩領となったのに対して古城地域は延岡藩の飛び地となっている。

一方、古城には日向七堂伽藍の1つに数えられた池上山伊満福寺がある。真言宗の寺であり、1时期は隆盛を極め古城町時雨に奥の院を擁し、現在の大淀地区横町は門前町として栄えたこともある。文政元年（1818年）12月付の「修驗書上帳」には古城村や大塚（大墓）村に数人の修驗者が居たことも記されており、修驗者達の道場として、この一帯に連なる起伏の強い山陵が用いられたものと思われる。

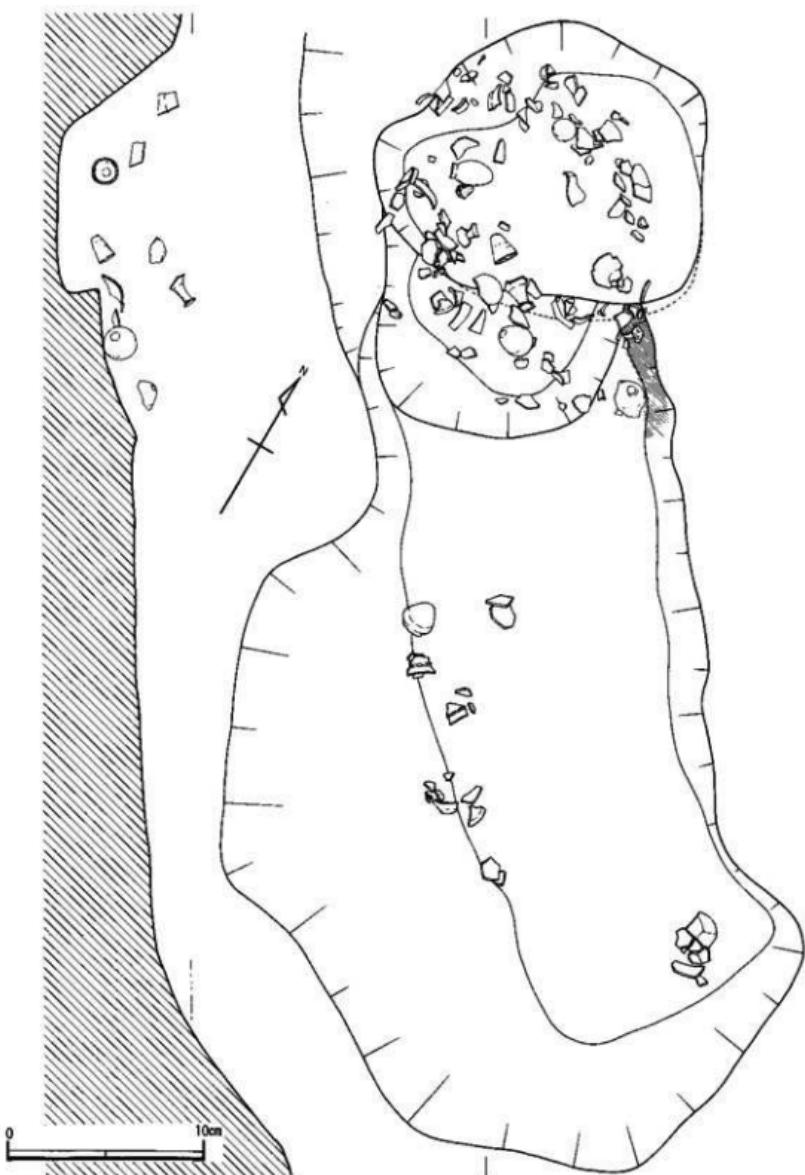
今なお、伊満福寺境内及び山陵頂部には当時を偲ぶ石塔群が多く残されている。



第2図 中岡遺跡の位置 (5,000分の1)



第3図 中岡遺跡全体図



第4図 窯成土坑実測図

### III. 遺構と遺物（土器）

#### 1. 遺構について

発掘調査は、調査区を2m方眼に組み南北軸をI～13区、東西軸をA～II区に設定した範囲において行っている。

遺構としては円形及び梢円形に掘り込まれた焼土坑、円形の粘土山、方形の井戸状遺構及び広範な焼土面を検出している。

土器群はD～3区から始まりD軸を中心として13区までおよび13区ではD～A区におよぶ幅広がり状態の出土を見ている。

焼土坑は、D～3区～D～5区にかけて検出され、西からの自然傾斜面を切り取って壁をつくり、東側においては一部粘土による土壁を作った幅約1.5m、長さ約6m、深さ約50cmの長梢円形状を呈し、床面は赤色の焼土面となり1部ではガラス質状に変化している状況が見受けられた。また、この土坑の北側（D～5区）において、重複する形で直径約1.5m、深さ約50cmの円形状焼成土壙も検出され土坑内側壁には、人形土器片を張りめぐらし、壁面の強化を図っている状況も見受けられた。

これらは自然地形をうまく利用したものであった。

粘土山は台形状を呈し、E～10区、G～10区、G～9区、H～10区と1プロツクを検出することができた。主体はE～10区のものであり、直径約2m、高さ約1mで粘土はシラスを混入し、かなり精製されたものであった。

井戸跡は、D～11区に位置し幅約80cm、長さ約1.2m、深さ80cmの長方形状を呈し、伏流水を利用した水溜めであったことがうかがえる。

そのほか焼土面はG軸の6～10区を中心とする広範囲に検出することができたが埋り込み等の遺構の確認はできなかった。

一方、B・C・D軸の11～12区においては土器片の集中度が最も大きく、製品的価値を失った土器の投棄を行ったモノワラ的な性格をもつ状態を確認している。

以上のような遺構等の確認からこの遺跡は、土器を製作焼成した遺跡の性格を強くもつものであった。

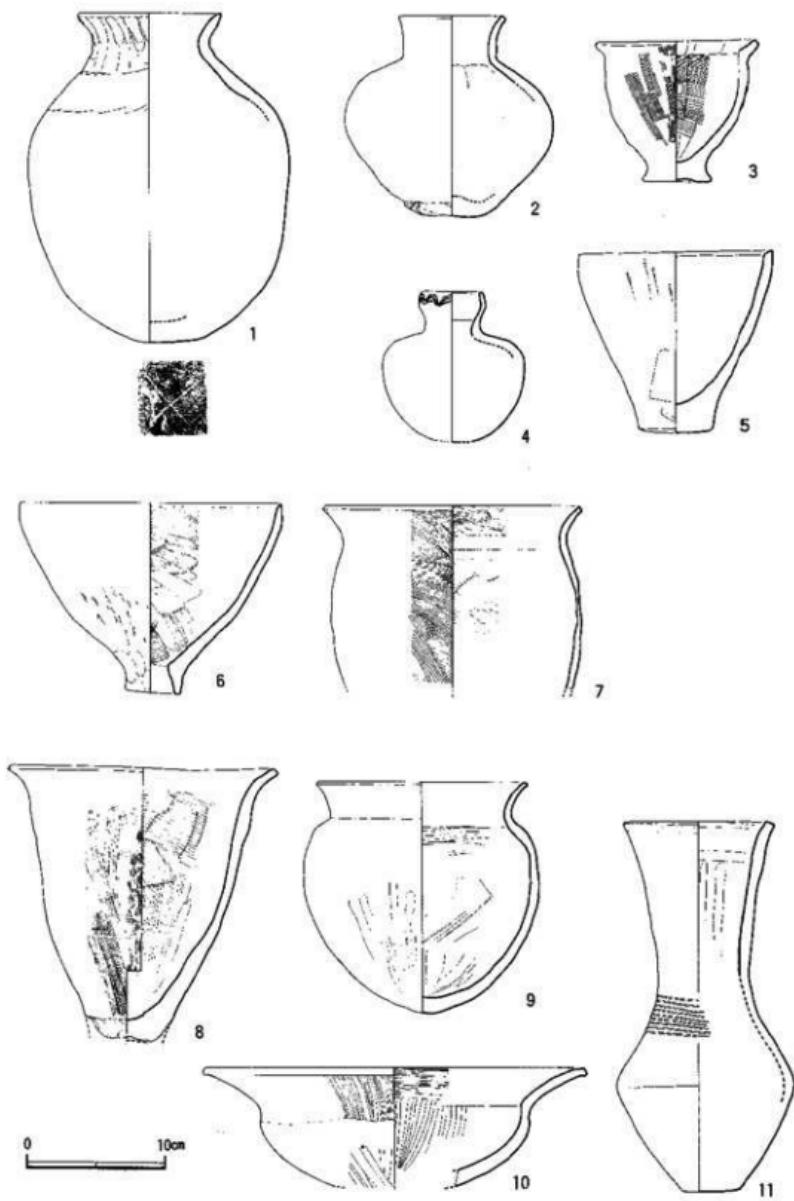
#### 2. 土器について

当遺跡の土器は完形品、接合されたもの、破片など、多量の出土をみている。遺跡の立地が傾斜地であったことなどから、その出土状況には他からの混入もみられたが、概ね一時期に堆積された土器群として把えられよう。

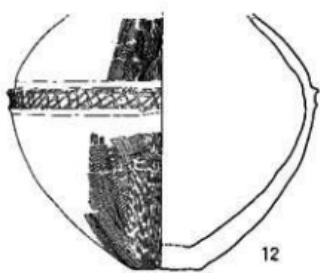
整理当初の段階で、小田富士雄氏に大まかに形成分類していただいたが、その後、作業が進むにつれ、客観的に層位的な土器の選別を行うことは困難な状況となってきた。

器種はバラエティに富んでおり、壺（広口壺・長頸壺・複合口縁壺・長胴壺）・壺・高杯・器台・ミニチュア土器などがある。特に複合口縁壺を中心とした壺類が多く、壺類は全体の土器量に比べて少ない。

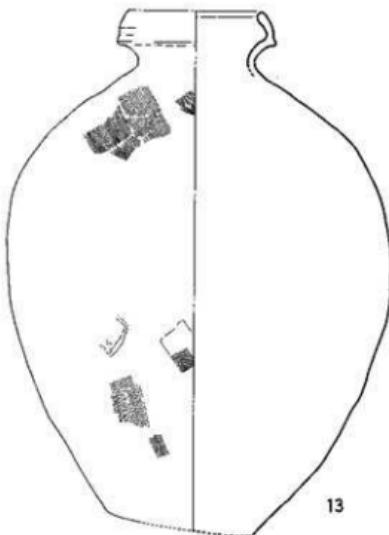
弥生時代後期末～終末期に属する土器群である。



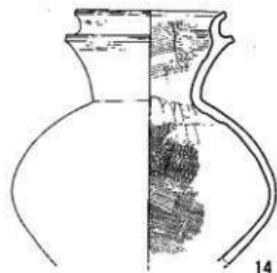
第5図 焼成土坑内出土土器実測図 1~11 (1)



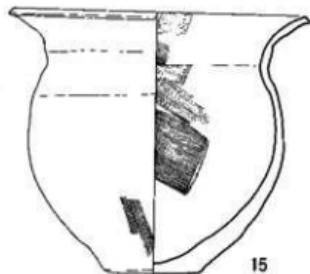
12



13



14



15



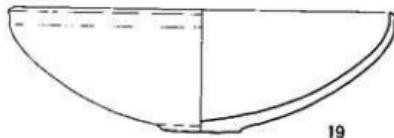
16



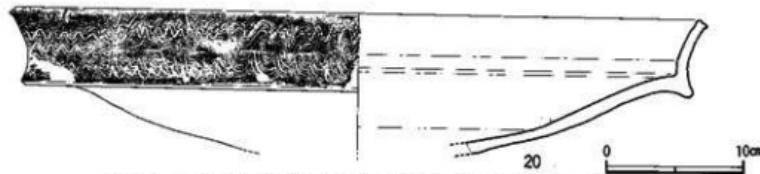
17



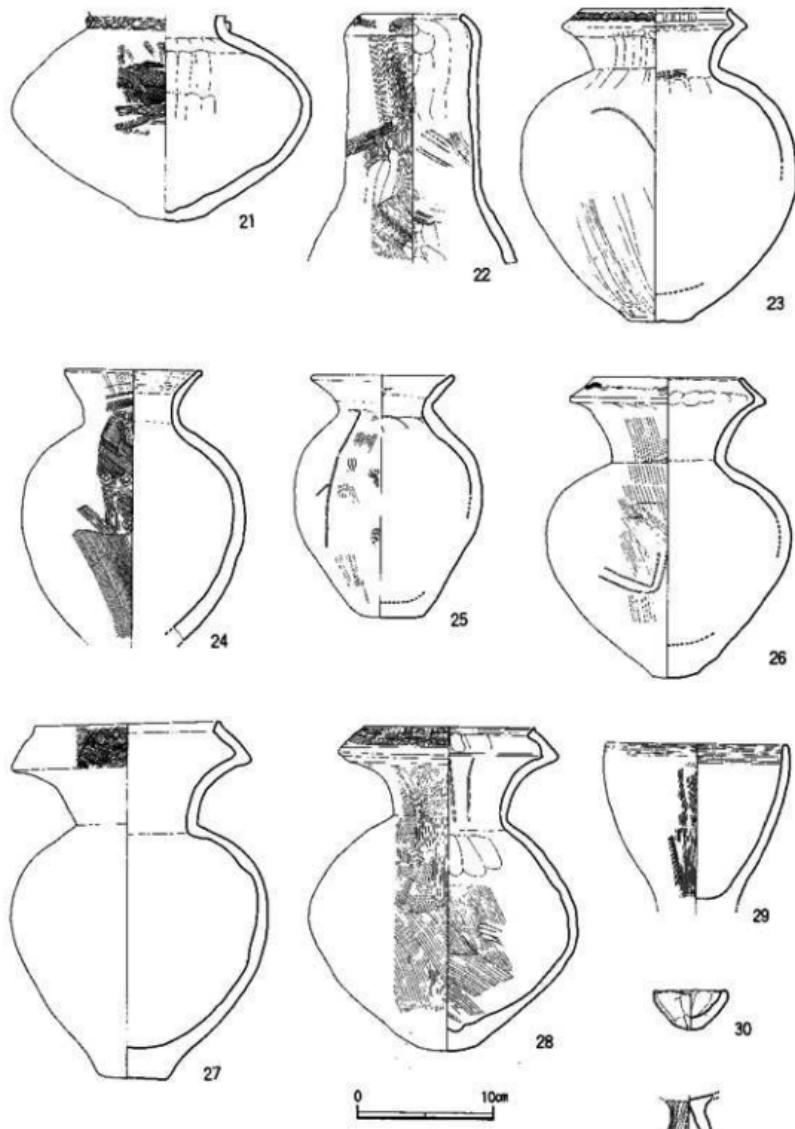
18



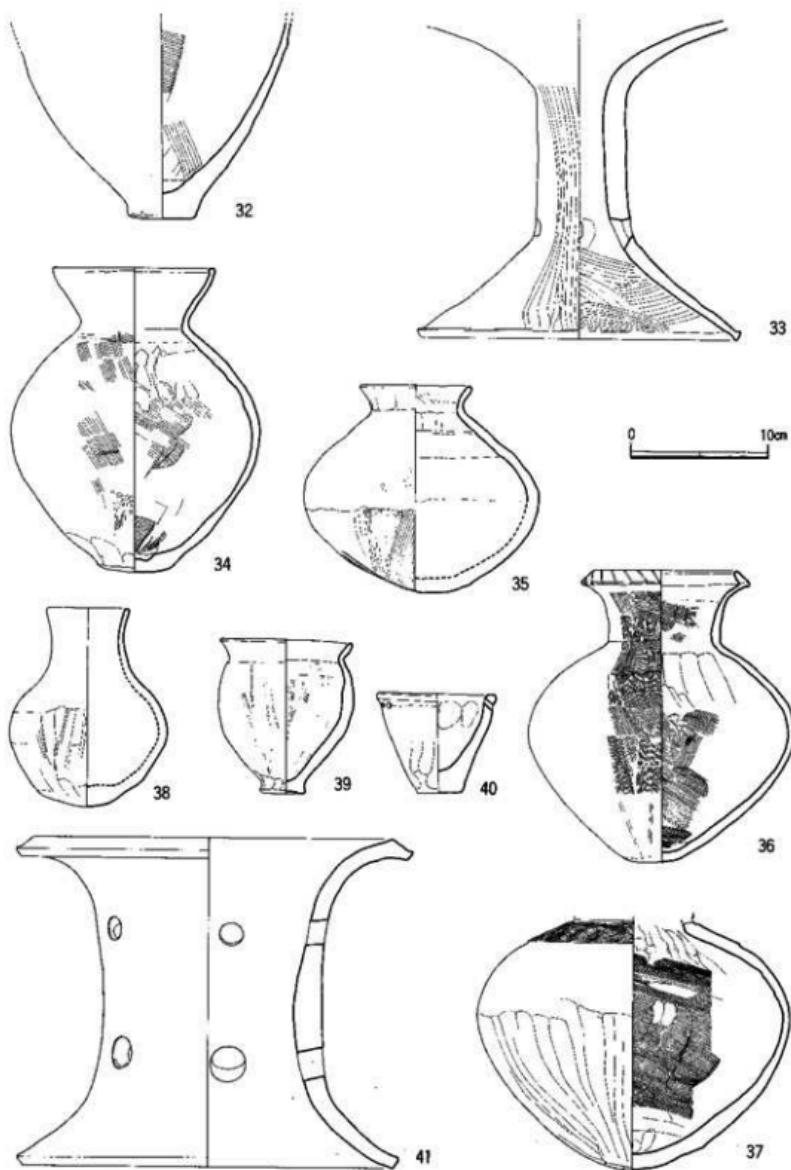
19



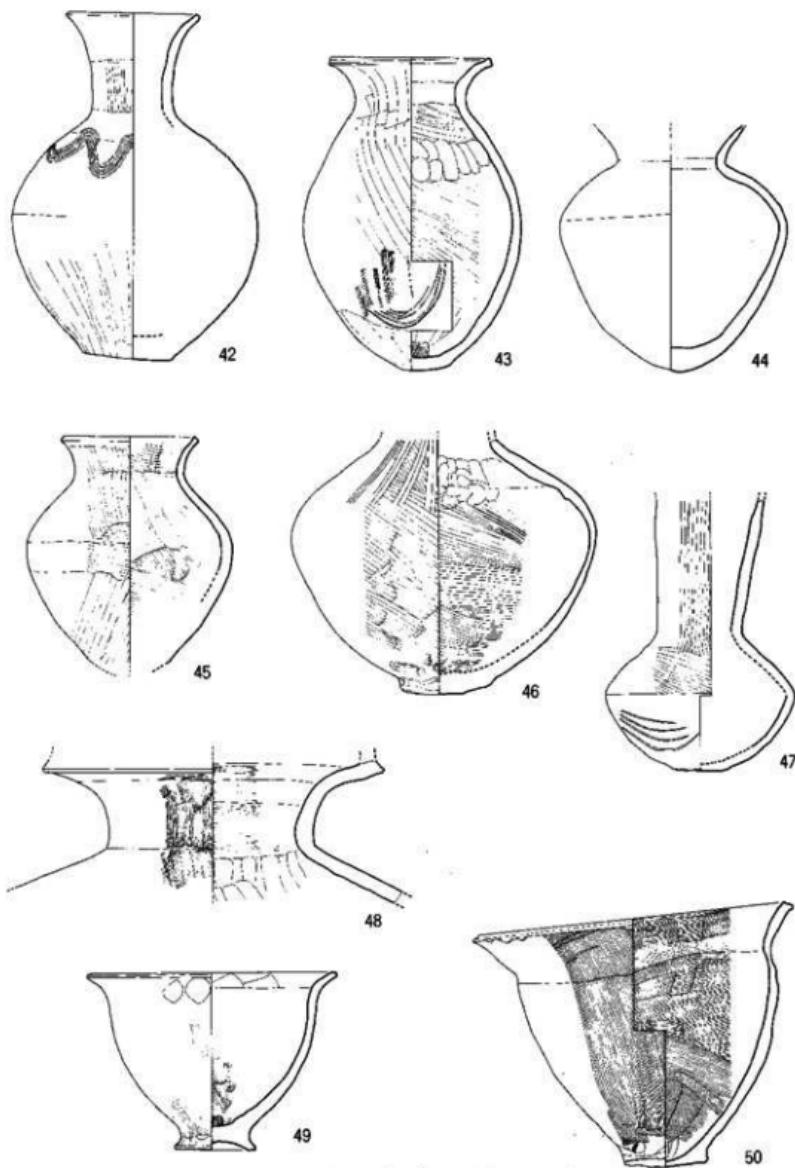
第6図 D-5・C-5区(焼成土坑上面)出土土器実測図19~20(+)



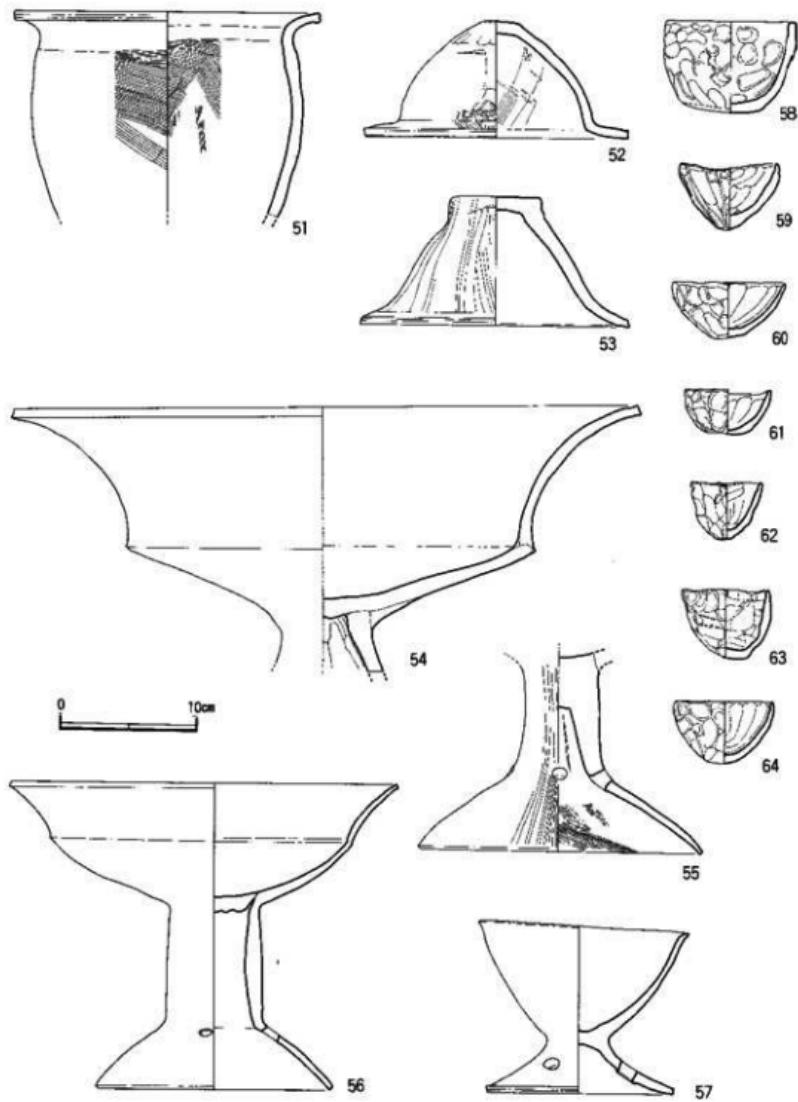
第7図 C-4・D-5区 出土土器実測図21~31 (上)



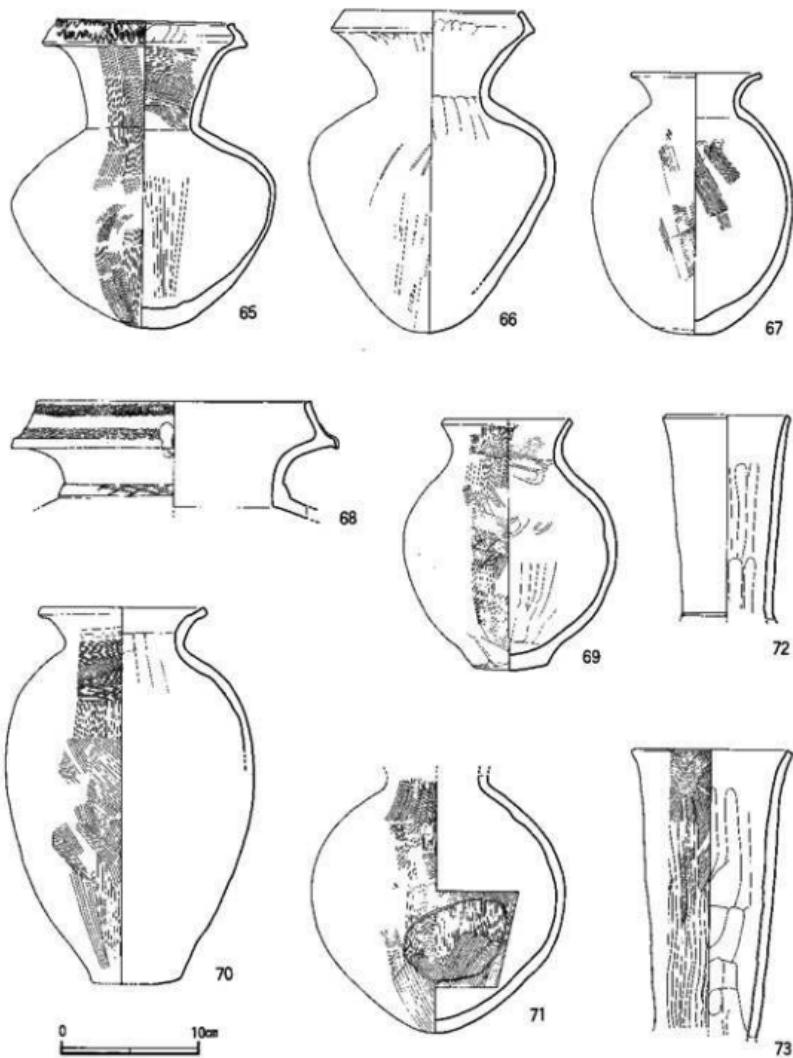
第8図 C-4・D-5・D-6区出土土器実測図32~41 (1)



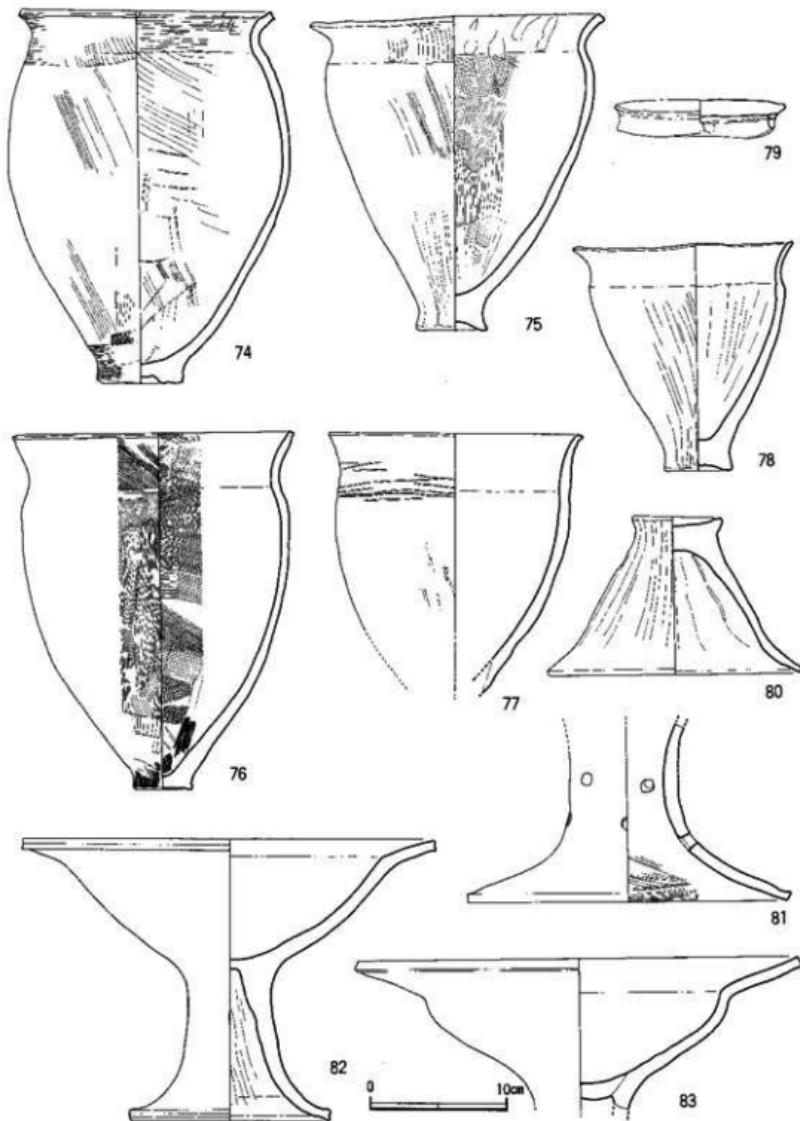
第9図 C-6区 出土土器実測図42~50 (1)



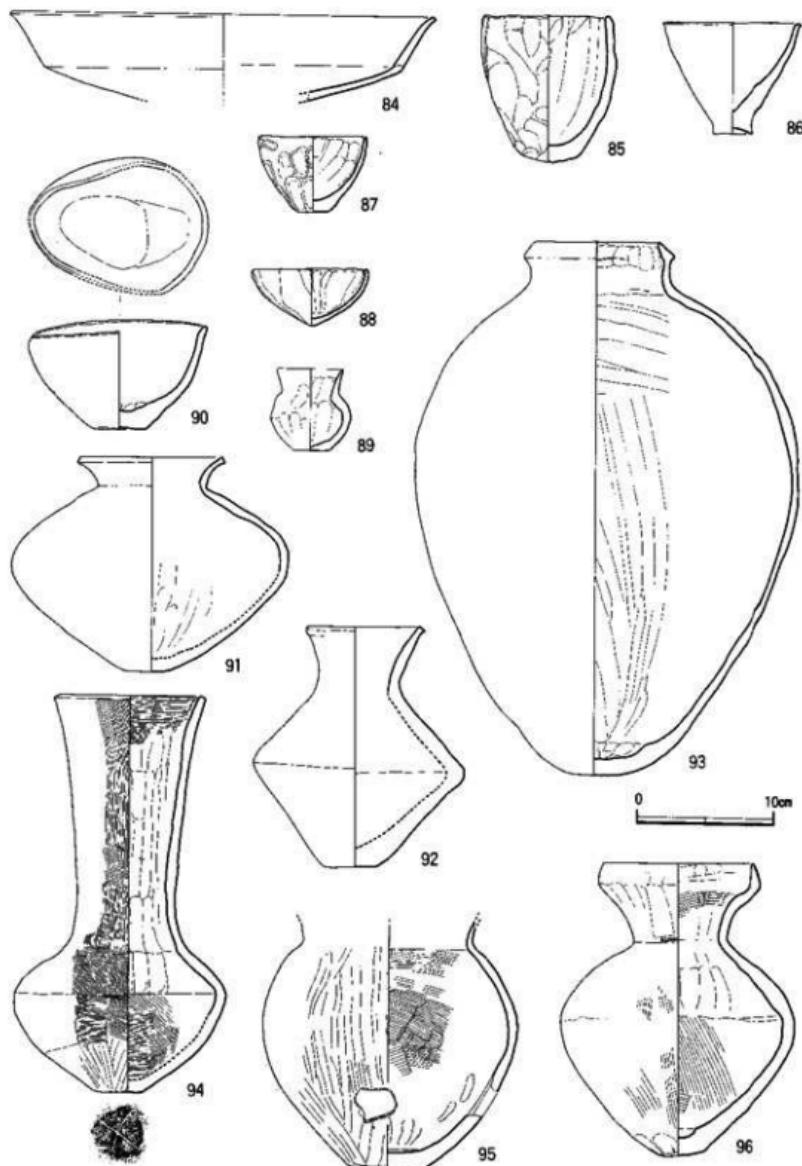
第10図 C-6区 出土土器実測図51～64 (上)



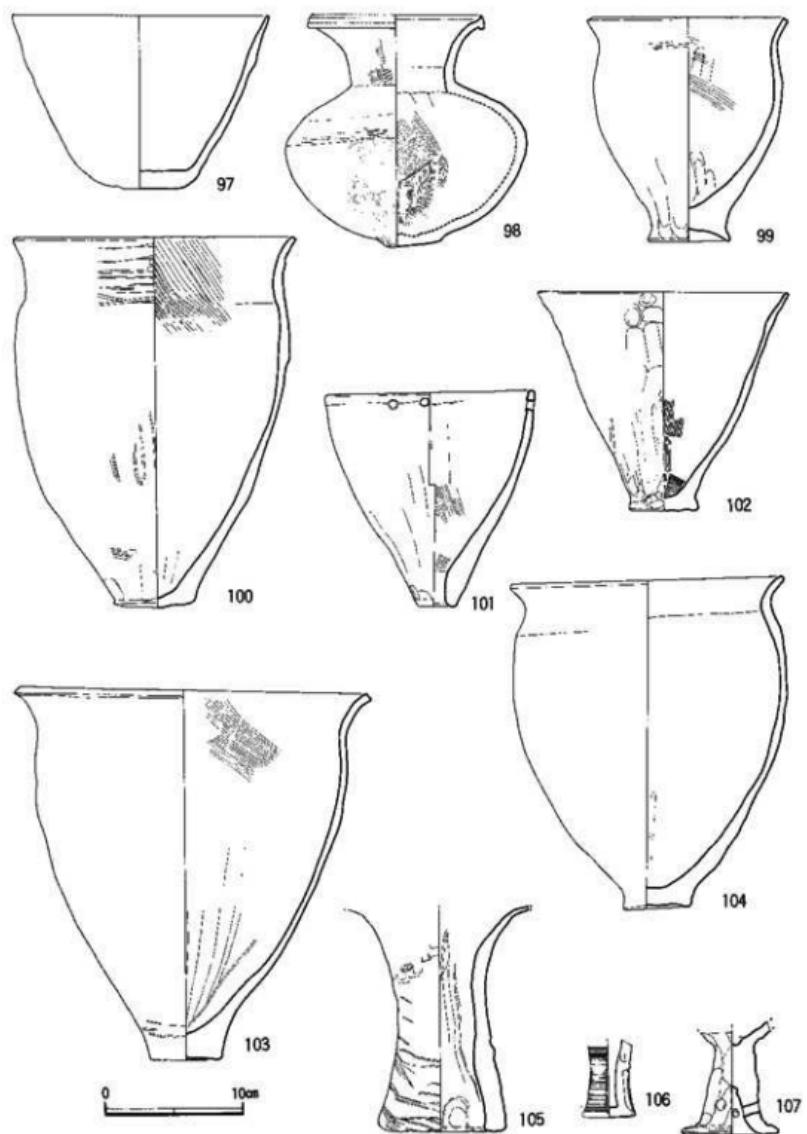
第11図 C-7区 出出土器実測図65~73 (1/2)



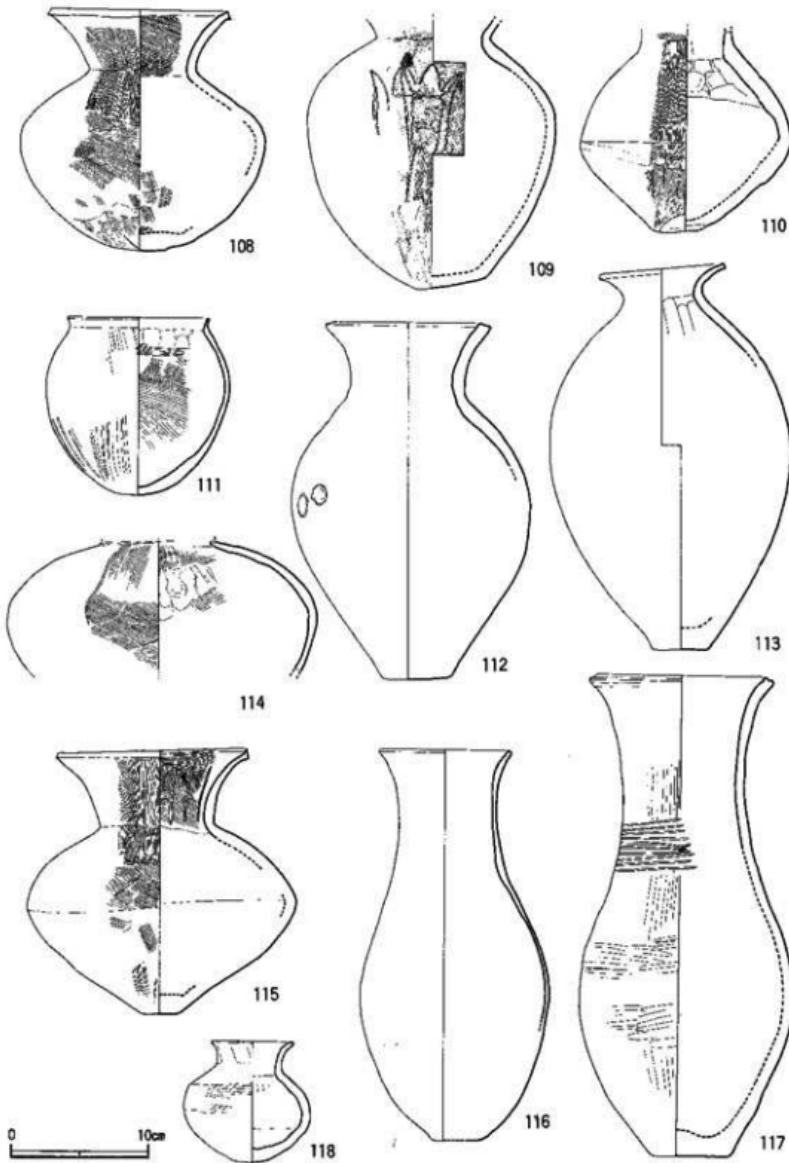
第12図 C-7区 出土土器実測図74~83 (上)



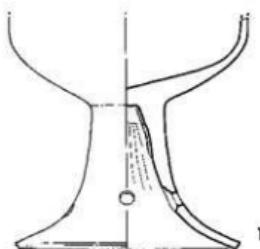
第13図 C-7・D-7区 出土土器実測図84～96 (+)



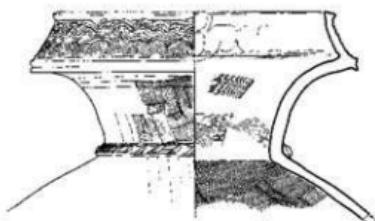
第14図 D-7・E-7・C-8・C-9区 出土土器実測図97~107(1/2)



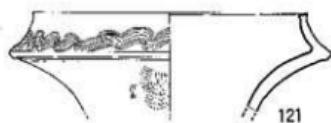
第15図 D-8・D-9区 出土土器実測図108～118 (±)



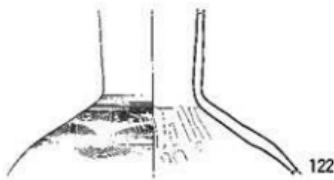
119



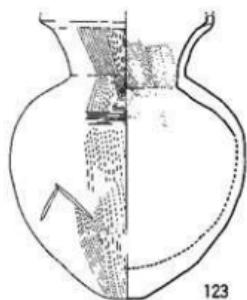
120



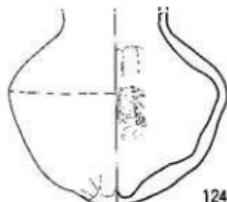
121



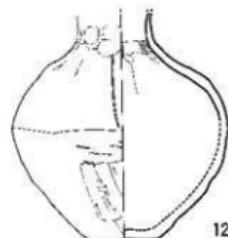
122



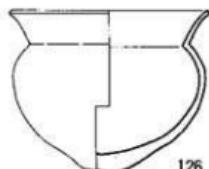
123



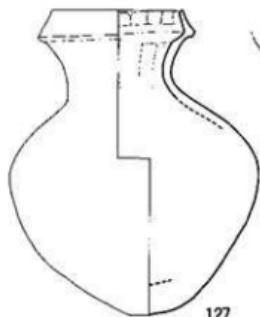
124



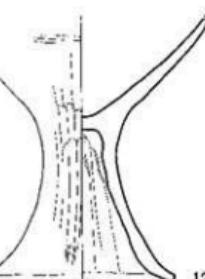
125



126

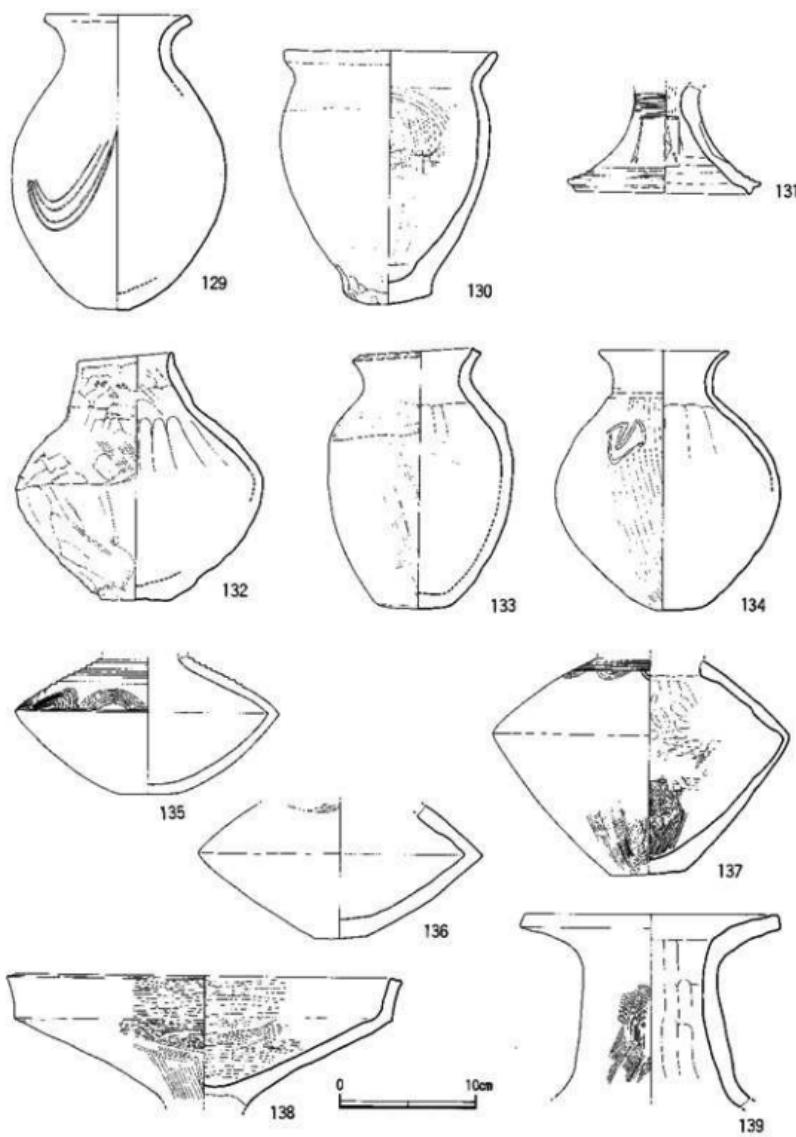


127

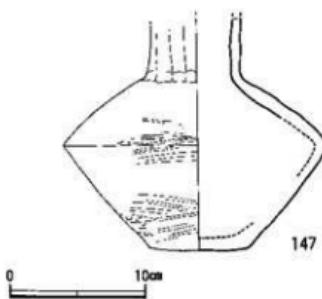
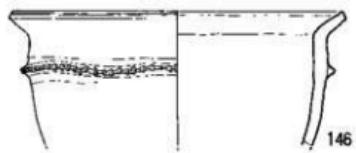
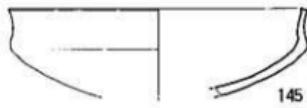
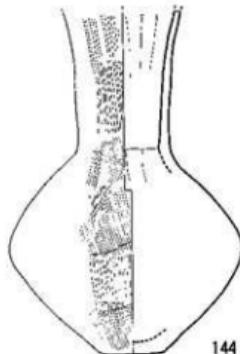
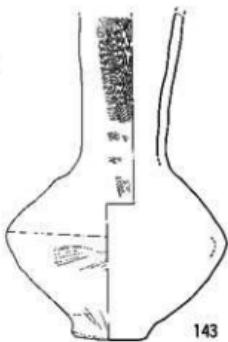
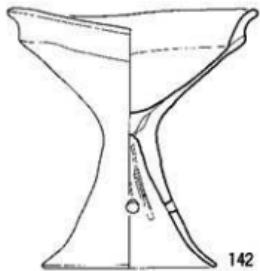
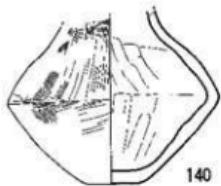


128

第16図 D-9・D-10・D-11・C-12区 出土土器実測図119～128 (+)



第17図 C-11・D-12・D-13区 出出土器実測図129~139 (上)



第18図 E-11・E-12・E-13・F-11区 出土土器実測図140～147 (- $\frac{1}{4}$ )

## 出土土器一覧表

地区(同番号)	器種	出土地点	法量 cm ( )内は推定	形態の特徴	手法の特徴	備考
第5回 同版6 1	壺	D-4区 造構内	口 径 10.4 底 径 4.5 器 高 24.0	胎土: 細砂 (ウンモ・角閃石・赤褐色 の粒子) を含む 焼成: 良 色調: 赤褐色 底にX彫刻文を描く	D構部は指押され、腹部以下は ナダ。脚下部に削痕。	口縁を若干欠く 完形品
第5回 同版6 2	壺	D-5区	口 径 7.8 底 径 4.5 器 高 14.9	胎土: 細砂を含む 焼成: 良 色調: 赤褐色 底部に指捺痕や条痕(压痕)	ナダか? (表面が焼れている) 内面は肩部に指押さえ、ほかは ナダ。	完形品
第5回 同版6 3	小形彫形土器	D-5区 焼成土坑床部	口 径 11.9 底 径 5.1 器 高 10.25	焼成: 良 色調: 淡黄褐色	外面: タテ方向の細かいハケ目 内面: ヨコ方向ハケ目 底部外面はナダ	口縁の一部と底 部底を若干欠損
第5回 同版6 4	小形彫形土器	D-5区 造構区	口 径 4.4 底 径 3.5 器 高 11.0	胎土: 精良 細砂を含む 焼成: 良 色調: 明褐色 内窓する口縁部には壓搾痕状文が施 されている。	外面とともにナダ。	1/3位欠損 復原品
第5回 同版6 5	鉢形土器 (甕?)	D-5区	口 径 14.2 底 径 5.4 器 高 13.2	胎土: 細砂 (石英・角閃石・赤褐色 の粒子) を含む 焼成: 良 色調: 褐色~淡褐色 下半部は内外面ともに黒灰色を呈す。	外縁: ヘラナダ、粘土のひびわ れあり。 内面: ヘラナダ。 口縁部は指押さえ	口縁部の傷が生 きているかやや 不安あり
第5回 同版6 6	瓢形土器	C・D-3区	口 径 19.0 孔 径 4.0 器 高 13.8	胎土: 細砂を含む 焼成: 良好 色調: 明赤褐色 底部が尖があり、ロート状に孔が開いて いる。	外縁: ナダ、粘土のひびわれあ り。 内面: 斜向の細かいハケ目 孔外縁は指ナダ	
第5回 同版6 7	甕	C・D-3・4区	口 径 (19.0)	胎土: 細砂 (角閃石・赤褐色粒子) を含む 焼成: 良 色調: 褐色~灰褐色 外面全体にススが付着	外縁とともにヨコ・斜向のハケ 目	底部上位~底部 は1/3位欠損 復原品
第5回 同版6 8	甕	D-3区	口 径 19.6	胎土: 粗い砂粒を多く含む 焼成: 良 色調: 白っぽい黄褐色	口縁内外ナダ 外縁: タテ方向ハケ目 内面: 上位で斜向ハケ目 下位でタテ方向ハケ目 ハケ後のナダ	底部欠損 口縁も若干欠く
第5回 同版6 9	甕形土器 (鉢形土器?)	D-4区	口 径 15.4 最大径 18.15 器 高 16.9	胎土: 精良 焼成: 良 色調: 淡褐色	外縁: ていねいなナダ (タテ方 向) 内面: 口縁ではヨコナダ 胴部ではヘラナダ	ほぼ完形に接合
第5回 同版6 10	高 环	C-3区 造構内	口 径 (24.0)	胎土: 細砂を含む 焼成: 良好 色調: 赤褐色	外縁とともにヘラミガキ。暗文 様を呈する。	復原品
第5回 同版6 11	長 瓶壺	D-5区	口 径 (11.0) 底 径 4.1 器 高 27.0	胎土: 細砂を含む 焼成: 良 色調: 淡黄褐色 口縁部に9条の線刻文。脚下部に風 痕。	口縁内外にヨコナダ 外縁: ていねいなヨコナダ 内面: タテ方向にナダ	口縁の一部を欠 く

器物番号	器種	出土地点	法量 cm ( )内は推定	形態の特徴	手法の特徴	備考
第6回 同版7 12	壺	D-5区	底径 5.0	胎土：細砂を含む 焼成：良 色調：赤褐色 口縁部外に刻目凸帯。平底	凸帯上下はヨコナデ 外面：細かいハケ目 内面：ていねいなナダ	口縁部欠損 脚部 $\frac{1}{2}$ ほど欠く
第6回 同版7 13	大形壺	D-5区	口径 (9.8) 最大径 (28.3) 底径 (10.7) 器高 38.0	胎土：細砂・粗砂を含む 焼成：良好 色調：赤褐色 口縁部外に横搖波状文	外側：ハケ目	口縁と底部は ほとんど欠損 脚部は完存
第6回 同版7 14	二重口縁壺	C-5区	口径 11.0 最大径 (19.2)	胎土：細砂を少し含む 焼成：良 色調：赤褐色	1層内外面 ハケヨコナデ 底部内面：ナダ 脚部内面：新向の細かい ハケ目 脚部内面：指ナダ	脚部から底部は 欠損
第6回 同版7 15	壺	C-5区	口径 (21.9) 底径 6.8	胎土：細砂を含む 焼成：良 色調：赤褐色	外面：ナダ 底部にはハケ目 内面：細かいハケ目	口縁はほとんど 欠損 復元図
第6回 同版7 16	小形施形土器	C-D-5区	口径 (6.2) 底径 1.8 器高 7.4	胎土：細砂を多く含む 焼成：良 色調：赤褐色 底に黒斑あり	内面：面共にナダ 外面：口縁下にハケ目	1位欠損 底部は完存
第6回 同版7 17	小形施形土器 (环)	C-5区	口径 (4.6) 器高 3.5	胎土：細砂・粗砂を含む 焼成：良好 色調：灰褐色	手づくね土器 内外面とも指ナダ	口縁を $\frac{1}{2}$ 欠損
第6回 同版7 18	小形施形土器 (环)	C-5区	口径 7.2 底径 2.5 器高 3.9-4.0	胎土：細砂含む 焼成：良 色調：淡黄褐色	内外面も指ナダ 手づくね上器	完形品
第6回 同版7 19	鉢形土器	C-5区	口径 28.4 底径 5.6 器高 9.0	胎土：細い砂粒を多く含む 焼成：良 色調：赤褐色～淡赤褐色	ナダか？（腹底が著しい） 口縁部底下はヨコナデ	$\frac{1}{2}$ ほど欠損 復原図
第6回 同版7 20	大形高環	C-5区 遺構内 焼成土坑上面	底径 (31.0)	胎土：細砂を含む 焼成：良好 色調：赤褐色 口縁部外に横搖波状文	外面：ヨコ・新向ハケ目 内面：ヨコ・タテのヘラミガキ	脚部を欠く 環部も $\frac{1}{2}$ ほど欠く
第7回 同版8 21	壺	C-4区	底径 4.8	胎土：細砂・赤褐色粒子を含む 焼成：良 色調：赤褐色 底部に刻目凸帯をめぐらす	外面：上位に細かいハケ目 下位に粗いハケ目 内面：粗ナダ後ハケ目 下位はミガキ縁のていねいなナダ	口縁部と脚部を $\frac{1}{2}$ 位欠損
第7回 同版8 22	長頸壺 口縁部	C-4区	口径 (7.4)	焼成：良好 色調：明るい黄褐色 外腹にヨコからタテにのびる2本の 横搖波状文、1本直下に横搖波状文	外面：タテ・斜内ハケ目 内面：指ナダ底	復原図

横四列版 番号	器種	出土地点	法量 cm ( )内は推定	形態の特徴	手法の特徴	備考
第7回 文版8 23	二重口縁壺	D-5区	LJ 桿(10.8) 最大径10.15 器 高 22.9	胎土: 粗砂を含む 焼成: 良 色調: 淡黄褐色～赤褐色 腹部上部に△状の縦割文	外面: 上位ナデ 下位ハラナデ 内面: 指押きえ、ナデ	頭第一部を若干 欠く、ほぼ完全 に癒合。
第7回 同版8 24	広口壺	D-5区	口 桿 10.0	胎土: 赤褐色粒子、石英を含む 焼成: 良好 色調: 淡褐色～灰褐色 肩部上部に竹筍文を2個施す。	外面: ハケ目 内面: ナデ	1本と欠損
第7回 同版8 25	広口壺	D-5区	口 桿 10.5 底 径 4.5 器 高 17.7	胎土: 粗砂、粗砂を多く含む 焼成: 良 色調: 赤褐色～灰褐色 腹部に一条の縦割文	外面: ハケ目(断続著しい) 内面: ナデ	ほぼ完形
第7回 同版8 26	二重口縁壺	D-5区	LJ 桿 14.4 底 径 12.9 器 下厚 22.0	胎土: 粘土を含む、焼成良。 焼成: 良 色調: 赤褐色 肩下部に△状の縦割文	外面: ハケ目 内面: ナデ	ほぼ完形
第7回 同版8 27	二重口縁壺	D-5区	LJ 桿(13.6) 底 桿( 5.1) 器 高 25.9	胎土: 粘土を含む 焼成: 良 色調: 赤褐色 口縁部に竹筍文を1個施す。	癒合の為、調整不明 内面: ナデ	口縁と底部の一 部を欠損
第7回 同版8 28	二重口縁壺	D-5区	口 桿 13.0 最大径 19.7 器 高 23.6	胎土: 粘土、粗砂を含む。 焼成: 良好 色調: 淡褐色 口縫内にタテに2条縦割文あり	外面: ハケ目 内面: ハケ目 内面: ハケ目 内面: ハケ目	完形に接合
第7回 同版8 29	小形変形土器 (环?)	D-5区	口 桿 13.4 器高(12.0mm)	胎土: 粘土を含む 焼成: 良好 色調: 淡褐色	外面: タテ方向ハケ目 内面: ヨコナデ 口縁内ナデ	底部欠損
第7回 同版8 30	小形塊形土器 (环)	D-5区	LJ 桿 5.4 器 高 2.9	胎土: 粗砂を含む 焼成: 良 色調: 淡褐色	手づくね土器 内外共に指ナデ	完形
第7回 同版8 31	小形凸环脚	D-5区	脚 桿 7.1	胎土: 膜かい砂を含む 焼成: 良 色調: 淡褐色 穿孔は5個	16部内面: ミガキ棒のナデ 脚部: タテ方向のミガキ 内側にしばり痕	
第7回 同版9 32	壺	C-4区	底 径 4.9	胎土: 粗砂、赤褐色粒子を含む 焼成: 良 色調: 黄褐色 底のふちに棒状のものの压痕(4個) が刻まれている。	外面: 板状工具の小山痕 内面: 板状工具の小山痕 長いハケナデ	
第8回 同版9 33	器 台	D-5区	裾 桿(23.5)	胎土: 粗砂を含む 焼成: 良 色調: 淡褐色 穿孔3個あり	外面: ハラミガキ 内面: 上位ナデ 脚部粗いハケ目	1/2欠損

探査区段 番号	器種	出土地点	法寸 ( )内は推定	形態の特徴	手法の特徴	備考
第8回 同版9 34	壺	D-6区	口径 11.8 最大径 18.2 器高 22.3	胎土：細砂、赤褐色粒子を含む 焼成：良 色調：赤褐色	口縁内外ヨコハケ後ナデ 外面：タテ方向ハケ目 内面：上段指ナデ、下半はヘラ ナデ	口縁部欠損
第8回 同版9 35	壺	D-6区	口径 8.2 最大径 17.2 器高 15.7	胎土：細砂を含む 焼成：良 色調：淡黄褐色	口縁内外ナデ 外面：上半ハケ目、下半は低い ハケ目。 内面：腹部から肩部に指ナデ痕	指ナデが跡で粘 土のつぎ目がみ える。
第8回 同版9 36	二重山線壺	D-6区	口径 (10.3) 最大径 19.4 器高 21.4	胎土：細かい石英粒を含む 焼成：良 色調：赤褐色 口縁に刻み目が施されている。 外面に斑斑。	外面：タテ方向の細かいハケ目 口縁底にはヨコナデ 内面：斜向ハケ目 胴上半は指ナデ	口縁部上位欠損
第8回 同版9 37	壺	D-6区	頭部径 (8.7) 最大径 (22.7)	胎土：細砂を含む 焼成：良好 色調：外腹黃褐色、内面灰褐色 縫合をもつた側部上半に台状のケズ りしがあり、そこに曲かい波状文	外面：タテ方向ミガキ 内面：頭部直下に指ナデ、全体 に板状工具の小口による ヨコハケナデ	1/2強欠損 復原図
第8回 同版9 38	小形表形土器	D-6区 粘土中	口径 9.6 器高 11.3	胎土：砂粒を含む 焼成：良 色調：赤褐色 底部内面にしばり跡あり。	外面：タテハケナデ 内面：口縁部ナデ 肩部指ナデ 下半ハケナデ(板状工具)	変形品
第8回 同版9 39	小形表形土器	D-6中 粘土中	口径 6.0 最大径 11.5 器高 14.5	胎土：粗い砂粒を多く含む 焼成：良 色調：灰褐色	口縁内外ナデ 外側：粗いハケ後ナデ 内面：ナデ後ヨコ方向の粗いハ ケ目	口縁を若干欠く 変形品
第8回 同版9 40	小形表形土器	D-6区 黄褐色粘質 土層上面	口径 8.7 底径 3.1 器高 (1.1~) 7.4	胎土：細砂を含む 焼成：良 色調：赤褐色 口縁底下に穿孔(2個で一対)あり	内外面共に指ナデ	変形品
第8回 同版9 41	器 古	D-6区	受け部径 28.9 脚部径 27.7 器高 24.0	胎土：細砂を含む 焼成：良好 色調：赤褐色 透かし孔が上下に10個(5×2)あり	受け部の内外面はヨコナデ、 複数も同じ。 外面：下半にヨコ方向ミガキ 内面：ていねいなナデ	口縁部上位欠損 脚部若干欠く
第9回 同版10 42	壺	C-6区	口径 9.7 底径 6.5 器高 25.3	胎土：やや粗い砂粒を含む 焼成：良 色調：赤褐色 口縁部に波状文がめぐる	口縁部内外共にヨコナデ 外面：頭部全体にミガキ	口縁部はほと んど欠損
第9回 同版10 43	壺	C-6区	口径 10.0 最大径 15.9 底径 3.5 器高 22.9	胎土：細砂を含む 焼成：良 色調：赤褐色 胴下半に連弧状の練刻文(4本)	口縁部内外ともにヨコナデ 頭部外面：タテ方向ヘラナデ、 下半はケズリ状 内面：肩部は指ナデ 他は粗いハケ目	頭部を若干欠く ほぼ完形
第9回 同版10 44	壺	C-6区	最大径 16.5	胎土：細砂を含む 焼成：良 色調：赤褐色	ナデか? 磨成のみ、開裂不明。	口縁をほとんど 欠く

井戸内筒番号	器種	出土地点	法量 cm	形態の特徴	手法の特徴	備考
第9回 回版10 45	壺	C-6区	口 径(10.0) 器 高(17.0 ~18.0)	胎土:細砂を含む 焼成:良 色調:明褐色 外縁、底部近くが灰褐色に変色。	口縁部内外はヨコナデ 外面:ヘラミガキ(粗いハケナ ダ?) 内面:口縁部低いヨコハケ目 肩部指ナデ、下平にハケ目	1/2以上欠損 底部を欠く 復原区
第9回 回版10 46	壺	C-6区	最大径(22.2) 底部径( 8.6)	胎土:細砂を含む 焼成:良好 色調:淡黄褐色 最大径の位置に黒斑あり。	外面:斜向の粗いハケ目へ タミガキ様のタナハケ目 内面:肩部に押す、下平に粗 い斜向ハケ目	口縁を欠く 物部の1/2を欠く 底部は完存
第9回 回版10 47	壺	C-6区	最大径: 13.8 底 径 3.9	胎土:細砂を含む 焼成:良 色調:赤褐色 側部下平に墨状に練刷文を施す。	口縁から胴部上半は粗いハケ目 下半はナデ 内面:ナデ	口縁部を欠損
第9回 回版10 48	二重口縁壺	C-6区		胎土:粗砂を多く含む 焼成:良 色調:淡褐色~黃褐色	外面:タナ方向細かいハケ目 内面:ヨコ方向ハケナデ 底部から肩部に指ナデ	口縁の立ち上がりと肩部を欠く
第9回 回版10 49	壺	C-6区	口 径(18.2) 底 径 5.9 器 高 12.9	胎土:細砂を含む 焼成:良 色調:淡黄褐色	外面:ハケナデ 口縁外指ナデ痕 内面:ハケ目 口縁内は指ナデ後、ヨコ方向ハ ケ目。	口縁部欠損 復原区
第9回 回版10 50	壺	C-6区	口 径 23.4 底 径 6.0 器 高 17.0 ~19.3	胎土:細砂を多く含む 焼成:良 色調:淡黄褐色 口縁底部の整形が跡で粘土がたれて いる。	外面:タナ方向、内面ヨコ方向 の粗いハケ目。 肩部:指ナデ痕	口縁の一部と肩 部若干欠損
第10回 写真公 し 51	壺	C-6区	口 径(22.4)	胎土:細砂を含む 焼成:良 色調:暗褐色 (内面は明褐色)	口縁内外ヨコナデ 内外共に横、斜向の粗かいハケ 目。 外面全体にスス付着	1/3ほどの破片 復原区
第10回 回版11 52	裏形土器	C-6区	口 径(19.3) 器 高 8.6	胎土:細砂を多く含む 焼成:良好 色調:黄褐色 側部外縁と口縁部内面に黒斑	口唇部ヨコハケナデ 口縁外側タナ方向ハケ目 肩部:ハケ後ミガキ 内面:ミガキ	1/2以上欠損
第10回 回版11 53	裏形土器	C-6区	口 径(19.8) 器 高 9.5	胎土:細砂を含む 焼成:良好 色調:灰褐色	外面:タナ方向へラナデ 内面:ミガキ 口縁内外ヨコナデ	口縁部から全体 にかけて欠損 復原区
第10回 回版11 54	高 环	C-6区	口 径(45.6)	胎土:細砂を含む 焼成:良好 色調:赤褐色 口縁部立ち上がり内側に深窪	内外共にヨコ方向へラミガキ	
第10回 回版11 55	高 环 周	C-6区	脚窓径(30.7)	胎土:細砂を多く含む 焼成:良 色調:明赤褐色 透かし孔 4個、脚柱下部にあり	外面:ミガキ様タナ方向ナデ 内面:細かいハケ目 しづり痕あり。	脚柱部1/2程欠損

種別・固版番号	器種	出土地点	法量 cm ( )内に推定)	形態の特徴	手法の特徴	備考
第10回 固版11 56	高環	C-6区	口 径(28.4) 脚幅径 17.2	胎土: 粗砂を含む 焼成: 良好 色調: 淡褐色 脚と环部を一度に作り後で环の底を 粘土でふさいで整形。	环部外面ナデ 内面ミガキ様ナデ 脚部外側ミガキ 内面ナデ	脚部に穿孔 (3個) 脚部 $\frac{1}{3}$ 欠損
第10回 固版11 57	脚台付环	C-6区	口 径 15.4 脚幅径 13.2 器 高 11.8 ~12.6	胎土: 粗砂を含む 焼成: 良好 色調: 淡赤褐色 环部と脚部は別々に作っている。 透かし孔は3個	ナデか? (器皿が丸い、不明) 脚部端部ヨコナデ 内面はナデ	
第10回 固版11 58	小形焼形土器	C-6区	LI 径 9.3 底 径 6.2 器 高 6.7	胎土: 粗砂を含む 焼成: 良 色調: 淡褐色	全体的に磨滅 指押さえ後ナデ	完形品
第10回 固版11 59	小形焼形土器 (环)	C-6区	口 径 7.1 器 高 4.6 ~ 4.9	胎土: 粗砂、粗砂を含む 焼成: 良 色調: 淡褐色~灰褐色	手づくね土器 指押さえ後ナデ	完形品
第10回 固版11 60	小形焼形土器 (环)	C-6区	口 径 8.2 器 高 3.2	胎土: 粗砂、粗砂を多く含む 焼成: 良 色調: 淡褐色	手づくね土器 指押さえ後ナデ	$\frac{1}{2}$ 弱ほど欠損 LI端~底部まで はそろっている
第10回 固版11 61	小形焼形土器 (环)	C-6区	LI 径 6.2 器 高 3.3	胎土: 粗砂、粗砂を多く含む 焼成: 良 色調: 淡赤褐色	手づくね土器 指押さえ後ナデ	ほぼ完存
第10回 固版11 62	小形焼形土器 (环)	C-6区	口 径 5.2 器 高 4.2	胎土: 粗砂、粗砂を多く含む 焼成: 良 色調: 淡黄褐色	手づくね土器 内外面に指押さえナデの痕	完形品
第10回 固版11 63	小形焼形土器 (环)	C-6区	LI 径 6.2 器 高 5.1	胎土: 粗砂、粗砂を多く含む 焼成: 良 色調: 淡青褐色 外側に巾3~4cmの刷毛	手づくね土器 指押さえ後ナデ	完形品
第10回 固版11 64	小形焼形土器 (环)	C-6区	LI 径(5.0) 器 高 4.6	胎土: 粗砂を多く含む 焼成: 良 色調: 淡灰褐色、内面は淡黄褐色	手づくね上器 指押さえナデ	約 $\frac{1}{4}$ 脚欠損
第11回 固版12 65	小形焼形土器 (环)	C-7区	口 径 12.9 最大径 19.3 器 高 22.4	胎土: 粗砂を多く含む 焼成: 良 色調: 淡黄褐色 口縁部に無い波状文がめぐる。	外側: ハケ目(テテ) 内面: ハケ目 LI端部(ヨコ) 脚 部(タテ)	脚部を少し欠く ほぼ完存
第11回 固版12 66	重口深盘	C-7区	LI 径 13.0 器 高 23.5	胎土: 粗砂を多く含む 焼成: 良 色調: 淡赤褐色	外側: 下位に上方に向のケズリ状 調理 内面: 指押さえ、指ナデ痕	LI端部欠損 復原品

持出品版 番号	器種	出土地点	法量 cm ( )内に墨定	形態の特徴	手法の特徴	備考
第11回 国版12 67	広口壺	C-7区	口 径(9.6) 最大径 14.6 底 径 4.5 器 高 20.1	胎土: 粗砂、板砂を含む 焼成: 良 色調: 淡褐色	外面: 粗いハケ目 内面: 粗かいハケ目	口縁部 $\frac{1}{2}$ 径欠く 及ね後傾凹
第11回 国版12 68	二重口縁壺	C-7区	口 径(20.0)	胎土: 精良、粗砂、赤褐色粒子を含む 焼成: 良 色調: 淡褐色 口縁部立ち上がりに枯土を貼り、ひ びわれを補修している。	内外面共にナデ	口縁25mm片 反転復原回
第11回 国版12 69	広口壺	C-7区	口 径(9.3) 底 径 5.5 器 高 18.4	胎土: 粗砂、細砂を多く含む 焼成: 良 色調: 淡褐色	外面: タテ方向ハケ目 内面: 口縁はヨコ・斜向ハケ目 胴部指ナデ	胴の一部と口縁 部の $\frac{1}{2}$ 径欠損
第11回 国版12 70	長柄広口壺	C-7区	口 径 12.3 底 径 6.4 器 高 27.6	胎土: 粗砂(石英、角閃石)を含む 焼成: 良 色調: 淡褐色	外面: 口縁から翼部はヨコ方向 のハケナダ 他はハケ目。 内面: 口縁ヨコナダ 他は指ナデ	口縫と底を若干 欠く ほぼ完形
第11回 国版12 71	壺	C-7区	口 径 7.7 最大径 18.5	胎土: 精良 細砂を含む 焼成: 良 色調: 淡褐色 肩部下位に円形の線刻文。	外面: 上位細かいハケ目 下位ケメリ状の粗いハケ 目。 内面: 口縁部直下指ナデ、以下 細かいハケ目。(ヨコ→タテ)	口縫を除いて ほぼ完形に接合
第11回 国版12 72	長頭逆口縁	C-7区	口 径(9.3)	胎土: 精良 細砂を含む 焼成: 良 色調: 晴褐色 肩部との境に二条の細い沈線をめぐ らす。	外面: ミガキ 内面: 指ナデ	口縁部のみ $\frac{1}{2}$ 径欠損
第11回 国版12 73	長頭逆口縁	C-D-7区	口 径 11.7	胎土: 細砂を含む 焼成: 良 色調: 暗褐色	外面: 細かいハケ目の後上から ヘラミガキ 内面: 指押しきえの後タテ方向指 ナデ	
第12回 国版13 74	壺	C-7区	口 径 18.6 底 径 6.2 器 高 27.2	胎土: 細砂を含む 焼成: 良 色調: 淡褐色	外面: 口縁部タテハケ目、ヨコ ハケナダ、他はハケナダ。 内面: 口縁部ハケヨコナダ 胴部 ケメリ様ナダ (ハケ削体使用)	光形品 中位が帶状に 黒化している。 (スス?)
第12回 国版13 75	壺	C-7区	口 径 21.5 底 径 6.2 器 高 23.0	胎土: 細砂を含む 焼成: 良 色調: 淡褐色 底部が黒く変色	外面: 口縁はタテ方向ハケ目の 後ヨコ方向ナデ 内面: 口縁部指ナデ 胴部はヘラナダ	ほぼ完形に接合
第12回 国版13 76	壺	C-7区	口 径(20.5) 器 高 26.0 底 径 4.2	胎土: 細砂を多く含む 焼成: 良好 色調: 淡褐色	外面: 細かいハケ目 内面: ヨコ方向の細かいハケ目 下位はタテ方向にナデ	口縫～胴部が、 $\frac{1}{2}$ 径欠損 復原回
第12回 国版13 77	壺	C-7区	口 径 18.6 器 高(19.0)	胎土: 細砂、板砂を含む 焼成: 良 色調: 淡褐色～水褐色	外面: 口縫にタテキ目様のシワ。 端部はナデ 胴部ケメリ状開窓 内面: ナデ(下→上)	胴部と口縫を少 しだけ欠損 底部欠損

排回出版番号	器種	出土地点	法量 cm ( )内は推定	形態の特徴	手法の特徴	備考
第12回 回版13 78	甕	C-7区	口 径 16.2 底 径 5.0 器 高 16.6	胎土：細砂、赤褐色粒子が多く含む 焼成：良 色調：淡褐色～橙色 胴下位に黒斑	口縁内外ナデ 割部外側5～7mmの下から上 へのヘラナデ 内面：ナデ	完形品
第12回 回版13 79	甕？	C-7区	口 径 11.3 -11.5	胎土：細砂を含む 焼成：良 色調：淡褐色 口縁のつけ根に對称に一对の穿孔あり。	外面：ミガキ 内面：立ち上がりのつけ根は指 押え→ヨコナデ、他はミ ガキ棒ナデ	完形品 穿孔は焼成前
第12回 回版13 80	蓋形土器？	C-7区	口 径 18.6 頂部径 6.6 器 高 12.6	胎土：細砂を含む 焼成：良 色調：赤褐色	外蓋：ヘラナデ 口縁内外ヨコナデ 内面：ナデ	完形品
第12回 回版13 81	器 台	C-7区	器 高 (23.6)	胎土：細砂を含む 焼成：良 色調：明褐色 迷かし孔は現存するもので8個 (4×2)	外面：タテ方向ミガキ 内面：上段ミガキ 裾部ハケ目	1/3周欠損 受け部を欠く
第12回 回版13 82	高 环	C-7区 遺構 内	口 径 30.0 -30.2 脚幅径 14.6 器 高 20.6	胎土：細砂を少し含む 焼成：良 色調：赤褐色～くすんだ褐色	口縁内と口唇部ヨコナデ 外面：ナデ 脚部ヨコナデ 内面：しぶり痕	環部を $\frac{1}{3}$ 位欠く
第12回 回版13 83	高 环	C-7区	口 径 (32.6)	胎土：細砂、粗砂を多く含む 焼成：良 色調：諸赤褐色 内面に黒斑	外面：ヨコナデ、ナデ 内面：ヨコ方向のミガキ	口縁も $\frac{1}{2}$ 位欠く 復原図
第12回 回版13 84	高 环	C-7区	口 径 (31.0)	胎土：石英粒を少し含む 焼成：良 色調：明赤褐色	器面が荒れており不明瞭、内外 共にミガキか？	反転復原図
第12回 回版14 85	小形焼形土器	C-7区	口 径 9.1 器 高 10.7	胎土：細砂を多く含む 焼成：良好 色調：赤褐色 底部は黒灰色 底にはわら状のせんい痕あり	内外面共に指ナデ	完形品
第13回 回版14 86	小形焼形土器	C-7区	口 径 10.0 底 径 3.0 器 高 8.0	胎土：粗砂多し 焼成：良 色調：黄褐色 口縁内外に黒斑あり	内外面共にナデ	完形品
第13回 回版14 87	小形焼形土器 (B环)	C-7区	口 径 ( 8.0 ) 底 径 ( 2.2 ) 器 高 5.6	胎土：細砂を含む 焼成：良 色調：灰褐色	内外共に指ナデ (手づくね土器)	
第13回 回版14 88	小形焼形土器 (F环)	C-7区	口 径 ( 8.5 ) 器 高 4.1	胎土：細砂を含む 焼成：良 色調：明褐色	手づくね土器 内外面共に指ナデ	1/2周欠損

辨別図版 番号	器種	出土地点	法量 cm ( )内は推定	形態の特徴	手法の特徴	備考
第13回 図版14 89	小形透形土器	C-7区	口 径 (4.9)	胎土：粗砂多し 焼成：良 色調：淡褐色	指ナデ	
第13回 図版14 90	透形土器 (片口型?)	C-7区	口 径 12.8 器 高 7.2 ~8.0	胎土：粗砂、細砂を多く含む 焼成：良 色調：淡黄褐色～淡赤褐色 形がいびつで偏っており片口を認める。	ナアカ? 内外面共に削減しており調整不明瞭	口縁を若干欠く
第13回 図版14 91	広口壺	D-7区 粘 土 中	口 径 (10.7) 最大径 20.1 底 径 3.0 器 高 15.8	胎土：粗砂粒を多く含む 色調：淡赤褐色 焼成：良	表面が荒れており、調整は不明瞭 外面：ナゲ 内面：口縁部ナデ 上半指ナデ、下半ハラナデ	
第13回 図版14 92	広 口 壺	D-7区 造 構 内	口 径 8.7 最大径 15.4 底 径 3.9 器 高 17.6	胎土：粗砂を含む 焼成：良 色調：淡赤褐色 側部下半に黒斑あり。	ナアカ? 器面の荒れの為、調整は不明瞭	
第13回 図版14 93	大形長脚壺	D-7区	口 径 9.5 最大径 27.8 器 高 39.0	胎土：粗砂を多く含む 焼成：良好 色調：淡赤褐色	口縁内外指ナデ 外面：ナゲ? 内面：タテ方向巾5~10mm のヘラナデ	完形品
第13回 図版14 94	長 脚 壺	D-7区 造 構 内	口 径 11.0 最大径 15.3 底 径 3.3 器 高 29.0	胎土：粗砂を含む 焼成：やや良 色調：灰褐色 底にX字の擦痕文	外面：ハケ目 下半ハラナデ 内面：口縁部ハケヨコナデ 脚上半指ナデ 下半ハケ目	口縫部を若干欠く
第13回 図版14 95	壺	D-7区	最大径 18.5 底 径 5.7	脚部下半に焼成後の打ち欠きによる 穿孔あり、底に黒斑	外面：巾0.5~1cmのハケナデ 内面：上半、斜向ハケ目 下半指ナデ	口縫を欠く
第13回 図版14 96	二重口縁壺	D-7区 粘 土 中	口 径 11.0 最大径 17.1 器 高 21.5	胎土：粗砂を多く含む 焼成：良 色調：淡褐色	口縁外側：ナデ 内面：ナデ・粗いハケ目 脚部外面：ハケナデ 内面：上半指押さえ 下半粗いハケ目	口縫と脚部の一 部を欠く
第14回 図版15 97	鉢形土器	D-E-7区	口 径 (18.7)	胎土：石英・赤褐色粒子などの粗砂 を含む 焼成：良 色調：赤褐色～灰褐色	外面：ナゲ 内面：底に指ナデ、他はナゲ	1/2欠損 復元用
第14回 図版15 98	壺	E-7区 粘 土 中	口 径 13.0 最大径 17.6 底 径 4.0 器 高 17.0	胎土：石英などの粗砂を含む 焼成：良 色調：淡褐色	外面：ハケ目 内面：肩上半指ナデ 下半細かいハケ目	完形品
第14回 図版15 99	壺	C-8区	口 径 (14.8) 底 径 (6.0) 器 高 16.4	胎土：粗砂を含む 焼成：良 色調：灰褐色	内外面共にナデ 口縁内外ハケ目(タタキ目)? 器面が剥落して調整不明瞭	1/2欠損

辨別符版 番号	器種	出土地点	法量 cm ( )内は推定	形態の特徴	手法の特徴	備考
第14回 回版15 100	壺	C-8区	口 径 30.6 底 径 5.9 高さ 27.2	胎土: 細砂を含む 焼成: 良好 色調: 淡褐色	口縁部外面タタキ目 底部: タタキ目痕あり 他はケズリ状調整後ナゲ 内面: ハケ目	
第14回 回版15 101	瓶形土器	C-8区	口 径 15.4 孔 径 2.0 ~2.2 高さ 15.3 ~15.9	胎土: 細砂を多く含む 焼成: 良好 色調: 淡褐色 口唇部直下に2個の穿孔(焼成前) あり、底にロート状に孔が開く。	外面: ナゲ 下半に黒斑 内面: ナゲ 下半にハケ目	口縁が1/3ほど欠損
第14回 回版15 102	壺	C-8区	口 径 (20.4) 底 径 5.0 高さ 16.0	胎土: 細砂を含む 焼成: 良好 色調: 淡褐色	外面: 膨脹の為、調整不明瞭 指ナゲ後ハケ目? 内面: ハケ目 下部にヘラナテ	全体の1/3位残存 するのみ 反転して復原
第14回 回版15 103	壺	C-8区	口 径 (26.6) 底 径 5.2 高さ 27.0	胎土: 細砂を多く含む 焼成: 良好 色調: 淡褐色 脚部外面下半にスス付着	外面: ナゲ 内面: 口縁内ハケ目 他はタナ方向ナテ	
第14回 回版15 104	壺	C-8区	口 径 (20.0) 底 径 5.0 高さ 24.0	胎土: 細砂、細砂を多く含む 焼成: 良好 色調: 赤褐色~褐色	調整は不明 脚部外面中位にスス付着 底部に指押さえ痕あり	口縁~脚部欠損
第14回 回版15 105	蓋台形土器	C-8区	脚部径 9.3	胎土: 細砂を含む 焼成: 良好 色調: 淡褐色	外面: タタキ目 上半はタタキ目のうえからヘラナゲ 内面: しばり痕 脚部: 指ナゲ	上半を欠く
第14回 回版15 106	小形高環脚部?	C-9区		胎土: 細砂を含む 焼成: 良好 色調: 淡褐色 透かし状に経長いきざみが3列づけ られている。貫通していない。	ていねいなナゲ	环部を欠く
第14回 回版15 107	小形高環脚部	C-9区	脚部径 (7.1)	胎土: 細砂を含む 焼成: 良好 色調: 淡褐色 穿孔は6個で一個は貫通していない。	外面: 指押さえ 内面: ナゲ 脚内側しばり痕あり	环部を欠く
第15回 回版16 108	壺	D-8区	口 径 13.3 最大径 17.8 高さ 17.6	胎土: 細砂を含む 焼成: 良好 色調: 淡褐色	口縁部ヨコナゲ 外面: 細かいハケ目 下半は粗いハケ目 内面: 口縁に細かいハケ目 脚上位に指ナゲ	完形に接合 口縁を少し欠く
第15回 回版16 109	壺	D-8区	最大径 18.2	胎土: 細砂を含む 焼成: 良好 色調: 淡褐色	外面: 細かいハケ目 内面: 上半に指ナゲ	口縁以外は完存
第15回 回版16 110	壺	D-8区	最大径 15.4	胎土: 細砂を含む 焼成: 良好 色調: 淡褐色 脚部下半に3本の細刷文あり。	外面: ハケ目 内面: 指ナゲ 脚から肩にかけてしばり痕あり。	底部に剥落あり

拂因國版 書	器種	出土地点	法量 cm ( )内は推定	形態の特徴	手法の特徴	備考
第15回 国版16 111	短頭壺	D-8区	口 径 10.3 最大径 13.3 器 高 13.0	胎土：細砂を含む 焼成：良好 色調：赤橙色～淡黄褐色	外面：粗いハケナデ 口縁内外ナゲ 内面：底部に指ナデ 以下はハケ目	口縁を少しだく 完形品
拂因國版 第15回 国版16 112	長頭壺	D-8区	口 径 12.1 最大径 17.5 底 径 5.0 器 高 26.1	胎土：稍良 細砂を含む 焼成：良好 色調：赤褐色（赤色剥離？） 脚部中央に円形付文2個あり	廢滅の為、不明瞭 外面：ハケ目 内面：口縁部ハケ目 底部～軽部指ナデ以下は ハケ目	
第15回 国版16 113	長頭壺	D-9区	口 径 9.3 最大径 17.6 底 径 4.0 器 高 27.9	胎土：石英などを含む 焼成：良好 色調：淡黄褐色	内外面共にナデ 強部～肩部の内側は指ナデ	口縁部を1/2程欠く
第15回 国版16 114	壺	C・D-9区	最大径 22.6	胎土：細砂を含む 焼成：良好 色調：淡褐色 底部に一束の織割文	外面：タテ、斜向ハケ目 内面：上位にしばり板 以下指ナデ後ヨコハケ目	脚部下位と口縁 部を欠損
第15回 国版16 115	広口壺	D-9区	口 径 14.0 底 径 2.8 器 高 19.0 ～19.4	胎土：稍良 細かい石英粒を含む 焼成：良好 色調：淡褐色 口縁内側に3本の輪刻文 脚部外側下半に風靡	外面：ハケ目 口縁部内面ハケ目 内面：軽部上半指ナデ 下半ナデ	口縁部は廢滅し てているが、つま み上げ、ヨコナ デしていると思 われる。
第15回 国版16 116	長頭壺	D-9区	口 径 (9.7) 底 径 (3.8) 器 高 28.5	胎土：粗砂、細砂を多く含む 焼成：良好 色調：淡黄褐色	廢滅の為、不明瞭ナデか ？ 内外にはタテ方向の指ナデ	口縁部を1/2欠損
第15回 国版16 117	長頭壺	D-9区	口 径 (13.5) 最大径 15.6 底 径 5.4 器 高 35.1	胎土：細砂を含む 焼成：良 色調：淡褐色 底部にヨコ10本の麻引文	調整不明瞭 外面：上半タテ方向ヘラミガキ 下半ヨコ方向ヘラミガキ 内面：ナデ 口縁部はヨコナデ	口縁を若干欠く
第15回 国版16 118	小形密形土器	D-9区	口 径 6.0 最大径 9.2 器 高 9.9	胎土：細砂、赤褐色粒子を含む 焼成：良好 色調：淡黄褐色 底部外縁に直径3cmの黒斑	内縁内外はナデ 内面：指ナデ 外面：粗いハケ後ナデ	完形
第16回 国版17 119	高 环	D-9区	周縁径 16.4	胎土：細砂を多く含む 焼成：良好 色調：明赤褐色～黃褐色 底部に穿孔3個あり	調整は不明瞭 外面：ミガキ 内面：ナデ？(ミガキ) 脚部内面 ナデ→ヨコナデ	环部と脚部を1/2 強欠く
第16回 国版17 120	二重口縁壺	D-10区	口 径 19.0	胎土：赤褐色粒子を多く含む 焼成：良好 色調：淡黄褐色 口縁部全体に櫛擦痕状文	外面：細かいハケ目 脚部上位ヘラナデ 内面：口縁内側指ナデ 底部ハケ目 脚部ハケ目	脚部を欠く
第16回 国版17 121	二重口縁壺	D-10区 粘 土 中	口 径 (20.0)	胎土：細砂を含む 焼成：良 色調：淡褐色 口縁部に櫛擦痕状文	口縁部内外はヨコナデ 外側：粗いタテハケ目 内面：ミガキ(ヨコナデ)	口縁部1/2ほどの 破片 反転復原

考古学的 分類	器種	出土地点	法量 (cm) ( )内は推定	形態の特徴	手法の特徴	備考
第16回 回版17 122	壺	D-10区		胎土：細砂を含む 焼成：良好 色調：淡褐色 胴上位に沈線と溝底が交互に 施されている	外面：ナゲ 内面：ナゲ	破片 反転復原
第16回 回版17 123	壺	D-10区	最大径17.25 底 径 2.7	胎土：細砂を多く含む 焼成：良好 色調：淡褐色 胴部に入状の難削文あり	外面：上位タテ方向ハケ目 下平幅ハケ目 内面：口縁部カチ向のハケ 目以下斜向ハケ目	口縁を欠く 筒部は生存
第16回 回版17 124	壺	D-10区	最大径 16.0	胎土：細砂を多く含む 焼成：良好 色調：淡褐色 底部は灰褐色	外面：磨感の為不明。ナデか？ 下半はハケズリ様の 調板 内面：上位：指ナゲ 下位：ハケ目	口縁部欠損
第16回 回版17 125	壺	D-10区	最大径 15.7 底 径 4.9	胎土：細砂を含む 焼成：良好 色調：淡褐色 口縁部が非常に小さい	外面：上半ナゲ、下段カゼリ 口縁と肩部にかけてしばり痕 が内外面共にみられる 内面：ハケ目	口縁部のみ欠損
第16回 回版17 126	広口壺 (鉢形土器)	D-10区	口 径(14.6) 底 径 2.1 器 高 11.7	胎土：角閃石、赤褐色粒子を多く含む 焼成：良好 色調：明褐色	磨感の為不明瞭、ミガキか？ 胴部内面はナデか？	1/2弱欠損 反転復原
第16回 回版17 127	二重口縁壺	D-11区	口 径 9.6 最大径 18.2 器 高 22.3	胎土：細かい石英粒、角閃石を多く含む 焼成：良好 色調：明赤褐色	器頭の磨感が著しく不明瞭 内面：口縁内に折曲痕 底部にヨコナゲ 頭部にタテ折ナゲ痕	
第16回 回版17 128	高 环	C-12区	脚標径 13.4	胎土：細砂を含む 焼成：良好 色調：淡褐色	外面：ヘラナゲ 内面：ナゲ 脚部内面にしばり痕 外周：ヘラナゲ	环上部を欠く
第17回 回版18 129	壺	C-11区 傾斜面	口 径 10.8 最大径 15.5 器 高 21.6	胎土：細砂を含む 焼成：良好 色調：淡黃褐色～淡褐色	外面：ヘラナゲ 内面：ナゲ 口部はヨコナゲ	口縁部をわずか に欠く 光形品
第17回 回版18 130	壺	C-11区	口 径 15.7 底 径 6.5 器 高 18.6	胎土：細砂多し 焼成：良好 色調：褐色～明褐色	口縁内外はヨコナゲ 脚部外周ナゲ、下平～底部はヘ ラナゲ(根の小口張がつく)	充形品
第17回 回版18 131	高 环	C-D-12-13区	脚 径 (9.8)	胎土：細砂多し 焼成：良好 色調：赤褐色	内外面共にていねいなナゲ 内面にしばり痕あり	矢羽根透かしの 網 口部を欠損
第17回 回版18 132	壺	D-12区	口 径 7.0 最大径 18.0 底 径 5.0 器 高 18.2 ～17.5	胎土：細砂を多く含む 焼成：良好 色調：淡褐色	外面：ヘラ状工具によるナゲ 内面：指ナゲ	充形品

捲開闢番号	器種	出土地点	法量cm ( )内に推定	形態の特徴	手法の特徴	備考
第17回 団版18 133	壺	C-12区 D-12区	口 径 9.4 最大径 13.4 器 高 18.8	胎土：砂粒を含む 焼成：良 色調：黄褐色、内面、灰色 底部に黒斑(市約6.0cm)	外面：口縁ヨコハケナダ 下位タテ方向ヘラナダ (ハケ目) 内面：指ナダ 口縁内外はヨコナダ	ほぼ完形
第17回 団版18 134	壺	D-12区	口 径 (9.4) 最大径 16.3 底 径 3.7 器 高 19.0	胎土：細砂(赤褐色粒)、角閃石など を含む 焼成：良 色調：明赤褐色 外側の付着位置に波状のヘラ模文を 施す。	粗いハケ目 内面は指ナダ 磨滅の為、不明瞭	口縁部を若干欠く
第17回 団版18 135	壺	D-13区	最大径 19.2 底 径 4.4	胎土：粗砂を多く含む 焼成：良好 色調：檍削色～淡黃褐色 脚上位にヨコナダして段状をなす。 底部間に沈線を施し上向きの重強文をめぐらす	内外面共にナダ	免田系土器 口縁を欠く
第17回 団版18 136	壺	D-13区	最大径 20.8 底 径 3.7	胎土：細砂を含む 焼成：良 色調：外面、黄褐色～赤褐色 内面、灰色 底部底面に下向きの重強文	内外面共にナダ 外側はミガキに近いナダ	免田系土器 口縁を欠く
第17回 団版18 137	壺	D-13区	最大径 21.2 底 径 5.5	胎土：やや粗い砂粒を多く含む 焼成：良 色調：外側、淡黄褐色 内面、黑色 底部底面に10mmの平行沈線文がめぐら り、その下に下向きの重強文を施す	外面：ていねいなナダ 下位にハケ目 内面：指ナダ	免田系土器 口縁を欠く
第17回 団版18 138	高 环	D-13区	口 径 28.7	胎土：細砂を含む 焼成：良 色調：赤褐色	内外面共にミガキ	
第17回 団版18 139	器 台	D-13区	口 径 19.0	胎土：細砂を含む 焼成：良 色調：黄褐色	外面：ハケ目 内面：ナダ	
第18回 団版19 140	壺	E-11区 粘土中	最大径 15.5 底 径 3.8	胎土：細砂を含む 焼成：良 色調：灰黄色 底部中央に直径5～6cmの黒斑	外面：上半ハケ目後タチミガキ 下半ミガキ 内面：上半指ナダ 下半ヘラナダ	長縦環と思われる
第18回 団版19 141	變形土器	E-12区	口 径 29.8	胎土：細砂を含む 焼成：良 色調：淡褐色～淡黃褐色	内外面共に粗いハケ目	破片
第18回 団版19 142	高 环	E-11区	口 径 (18.2) 脚標径 12.7 器 高 18.9	胎土：細砂を含む 焼成：良 色調：黄褐色～赤褐色 脚部に透かし孔5個めぐる。 环と脚は統合で作り、後で間をふさ いでいる。	磨滅の為、不明瞭ナダか？ 脚部内面 しづり痕あり	环部が非常にい びつで波うって いる
第18回 団版19 143	壺	E-13区 下 層	底 径 5.4	胎土：細砂を含む 焼成：良好 色調：淡褐色 底に直径1cmのまるい凹みが押され ている。	口頭部 ハケ目 体部上位ていねいなナダ 下位粗いハケ状調整痕	

持田調査 番号	器種	出土地点	法景 cm ( )内は推定	形態の特徴	手法の特徴	備考
第18回 回版19 144	盃	E-13区	底径 4.6	胎土：粗砂を多く含む 焼成：良 色調：明赤褐色	外面：ハケ目 内面：指ナゲ	
第18回 回版19 145	高环	E-13区	口 径 (22.0)	胎土：粗砂を含む 焼成：良 色調：淡褐色	内外面共にミガキ	破片 反転回
第18回 回版19 146	变形土器	E-13区	口 径 (24.6)	胎土：粗砂を含む 焼成：良 色調：淡褐色	内外面共にナデ 割目凸巻の上下はヨコナデ	破片
第18回 回版19 147	盃	F-11区	最大径 19.2 底 径 7.1	胎土：粗砂を含む 焼成：良 色調：淡黄褐色	外底：ミガキ様のヨコ方向のナ デ 腹部ミガキ 内面：ナデ、ヘラナデ 頭部指ナデ	免田系土器

### 3. 絵画文・線刻文のある土器について

中岡遺跡出土の土器類の内、特に絵画文・線刻文のある土器が多く見られた。まだ総ての資料について検証するまでは至っていないが、200余点中42点の壺に線刻文が施されていた。

宮崎県内の絵画文のある土器としては、佐土原町下那珂遺跡、宮崎学園都14号地、清武町福屋敷出土のもの等が知られている。中岡遺跡D-8区出土の壺の胴部に描かれた絵画文の意匠は不明だが、県内の他遺跡の資料同様、鳥あるいは動物を表現していると思われる。

線刻文については、中岡遺跡の性格上（土器焼成遺構としての）、土器製作工程において何らかの意味をもつ記号としてつけられた可能性があると思われる。

A類 D-8区出土の絵画文の他に、胴部に円を描くもの、免田系土器の文様の退化形態と考えられるもの、櫛描波状文の退化形態と考えられるもの等。

B類 連弧文（b）、弧文（c）、それに近い意匠のもの（a）。

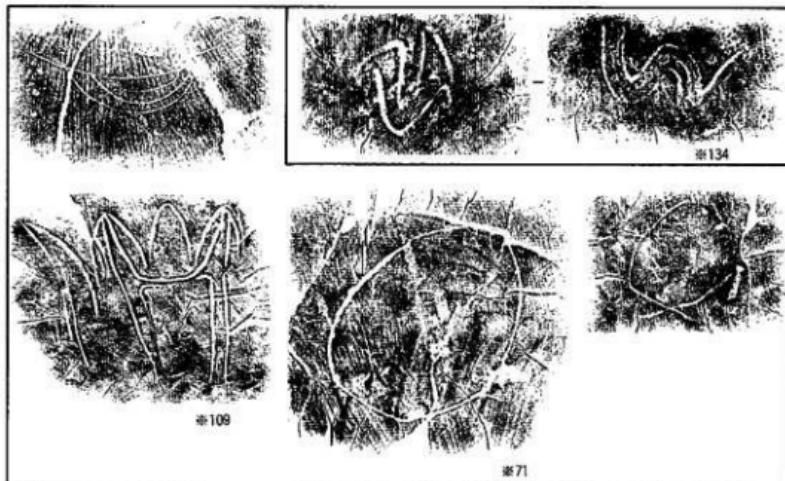
C類 脊上部ないし頸部にヨコ方向にヘラで複数の線をひくもの。

D類 タテ方向にヘラで一本（a）ないし数本（b）の線を胴部にひくもの。口縁内側に数本ひくもの（c）。

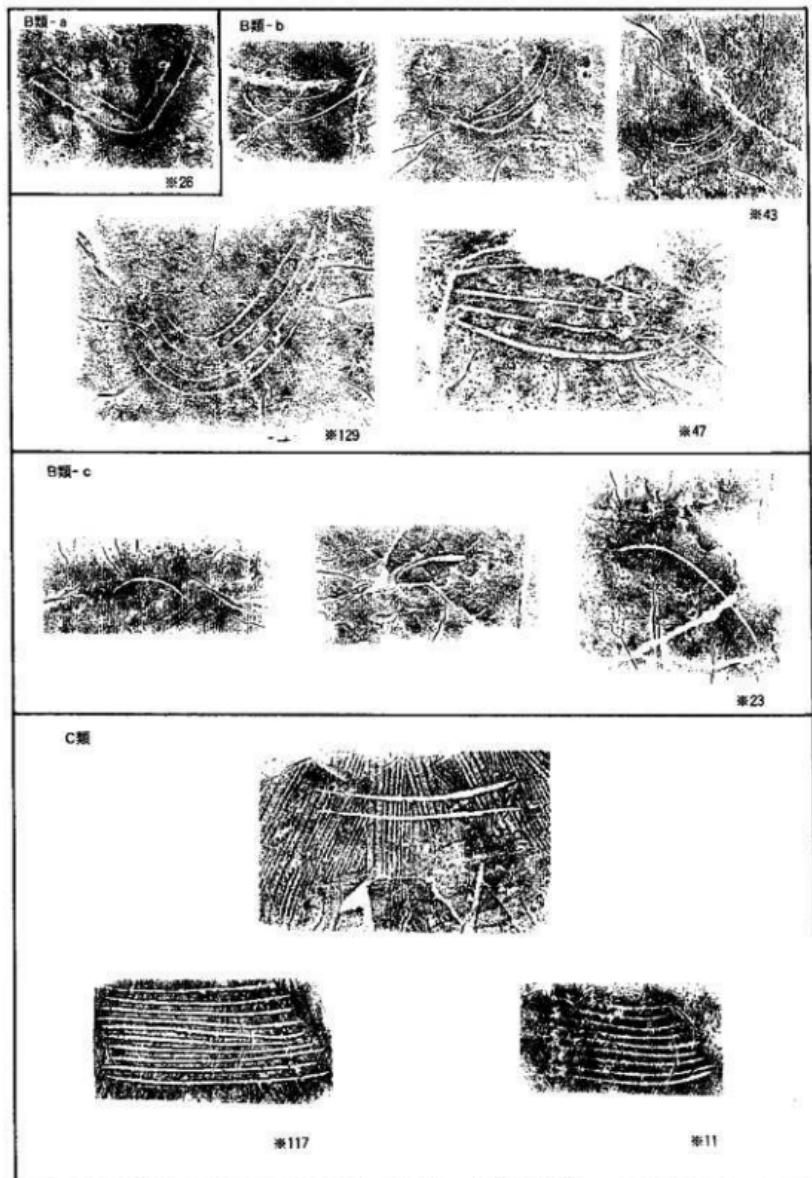
E類 入状に胴部にヘラ描きするもの。

F類 意匠としてはD類に似ているが、全部底部から胴部中位に向けて一本ないし数本ひくもので、中には調整時の条痕か？と思われるものも含まれている。

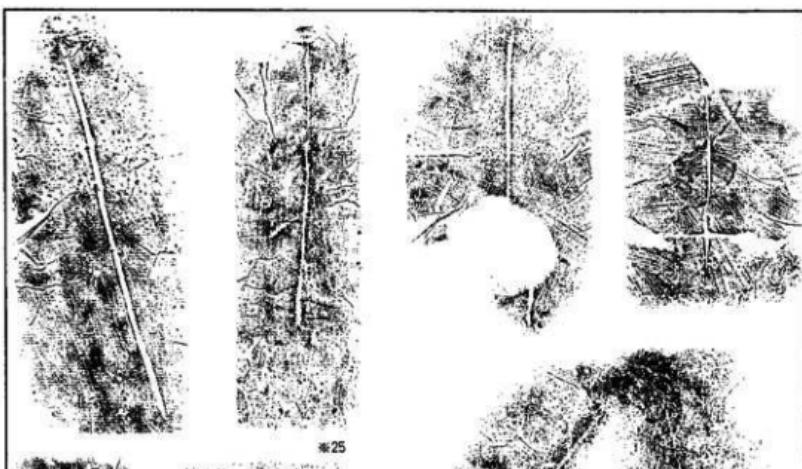
G類 壺の底に×状にヘラ描きされるもの。



A類



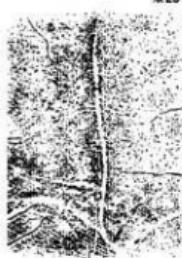
B類 (a + b + c) + C類



#125

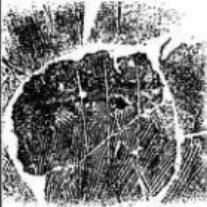
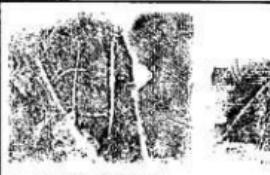


#125



#114

D類-a



#110

D類-b

口状につながっている。



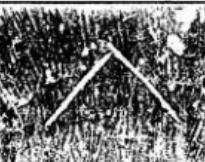
D類-c



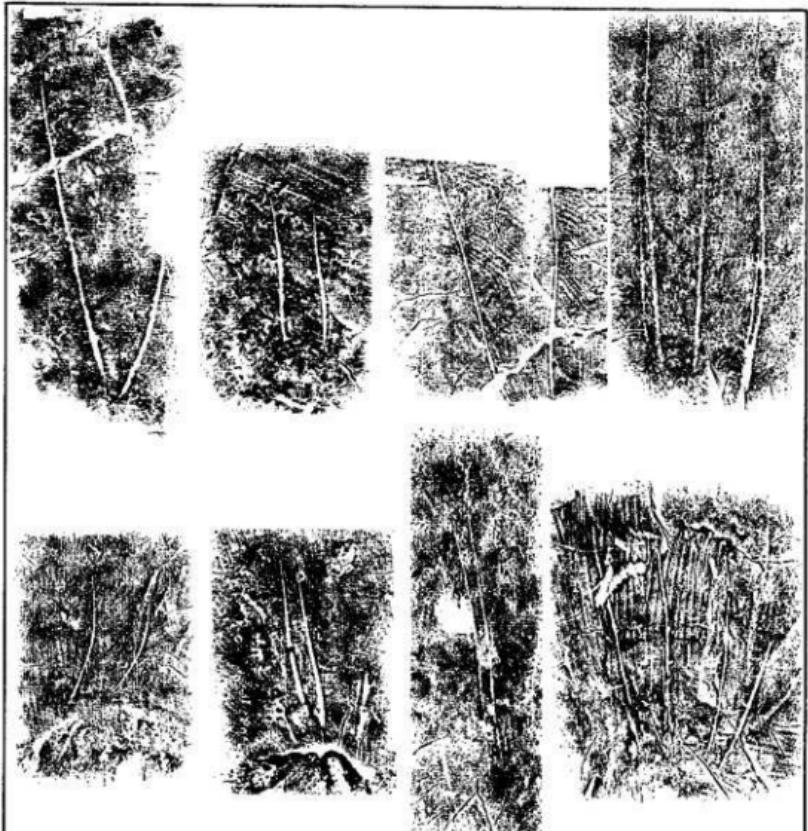
D類 (a + b + c) + E類



E類



#123



F類



※1



※94

G類

F類・G類

# 図 版

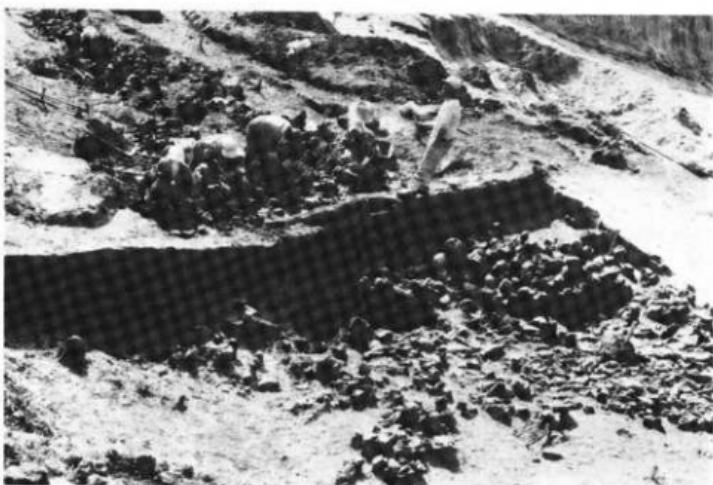




① 遺跡の全景



② 発掘調査作業風景



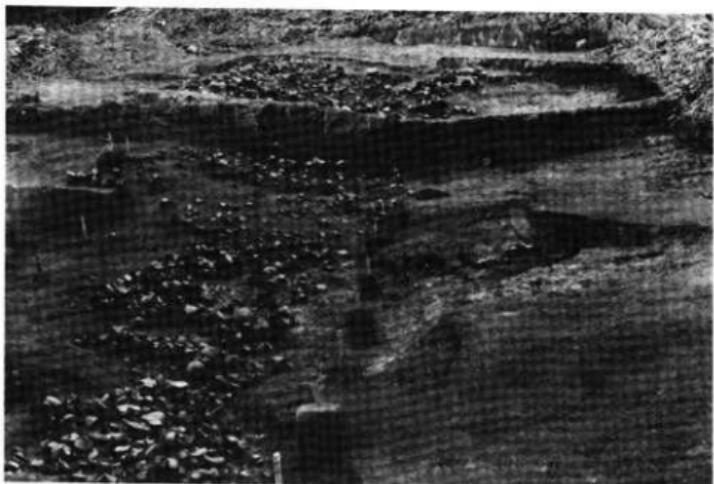
③ 発掘調査作業風景



④ 焼成土坑上面土器出土状態



⑤ 焼成土坑上面土器出土状態（北から）



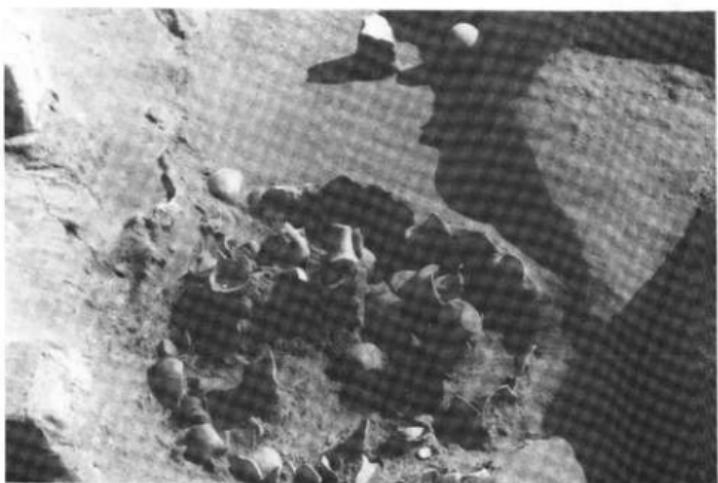
⑥ 焼成土坑上面土器出土状態（東から）



⑦ 烧成土坑上面土器出土状态



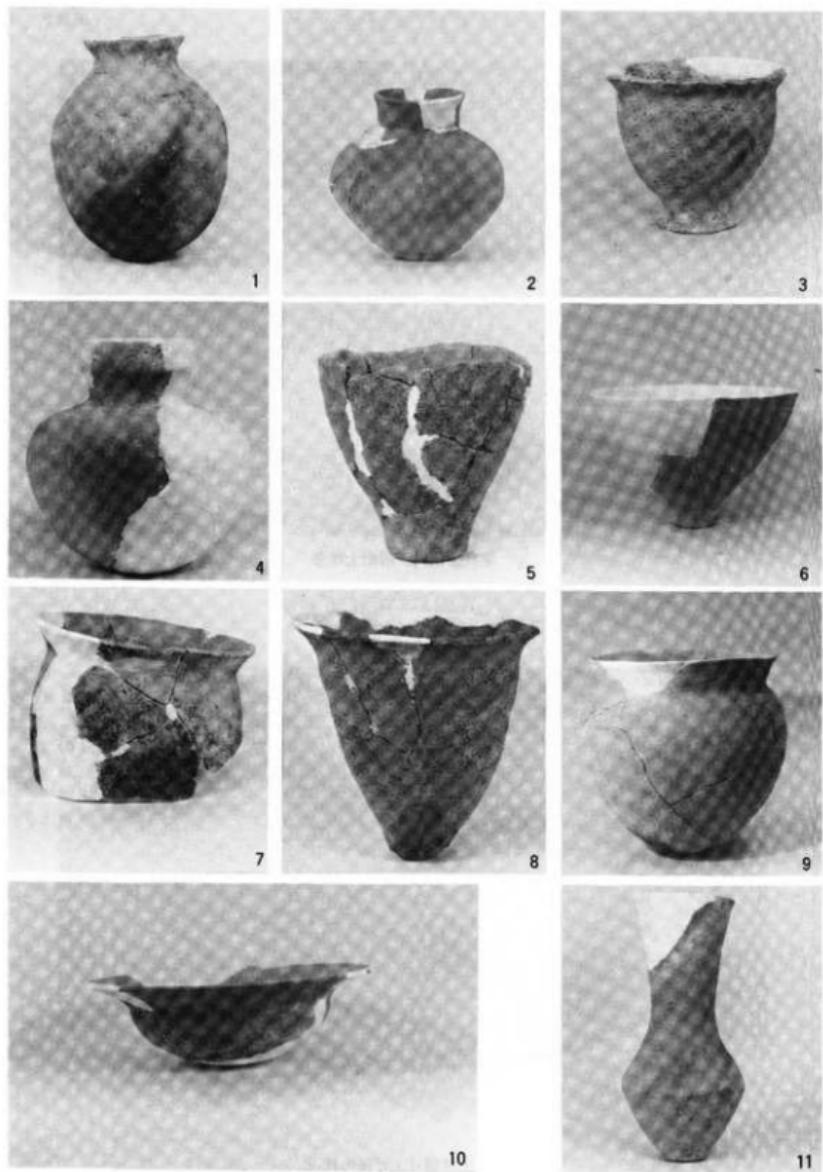
⑧ 烧成土坑上面土器出土状态



⑨ 焼成土坑内土器出土状態



⑩ 焼成土坑掘り上げ後の状況



図版 6 焼成土坑内出土土器 1~11



12



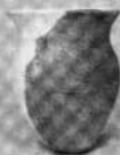
13



14



15



16



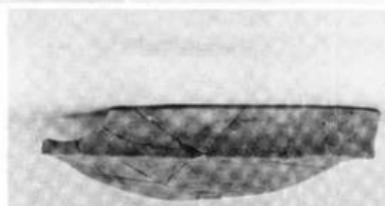
17



18



19

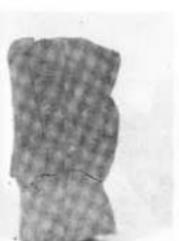


20

國版7 D-4・D-5・C-5出土土器12~20



21



22



23



24



25



26



27



28



29

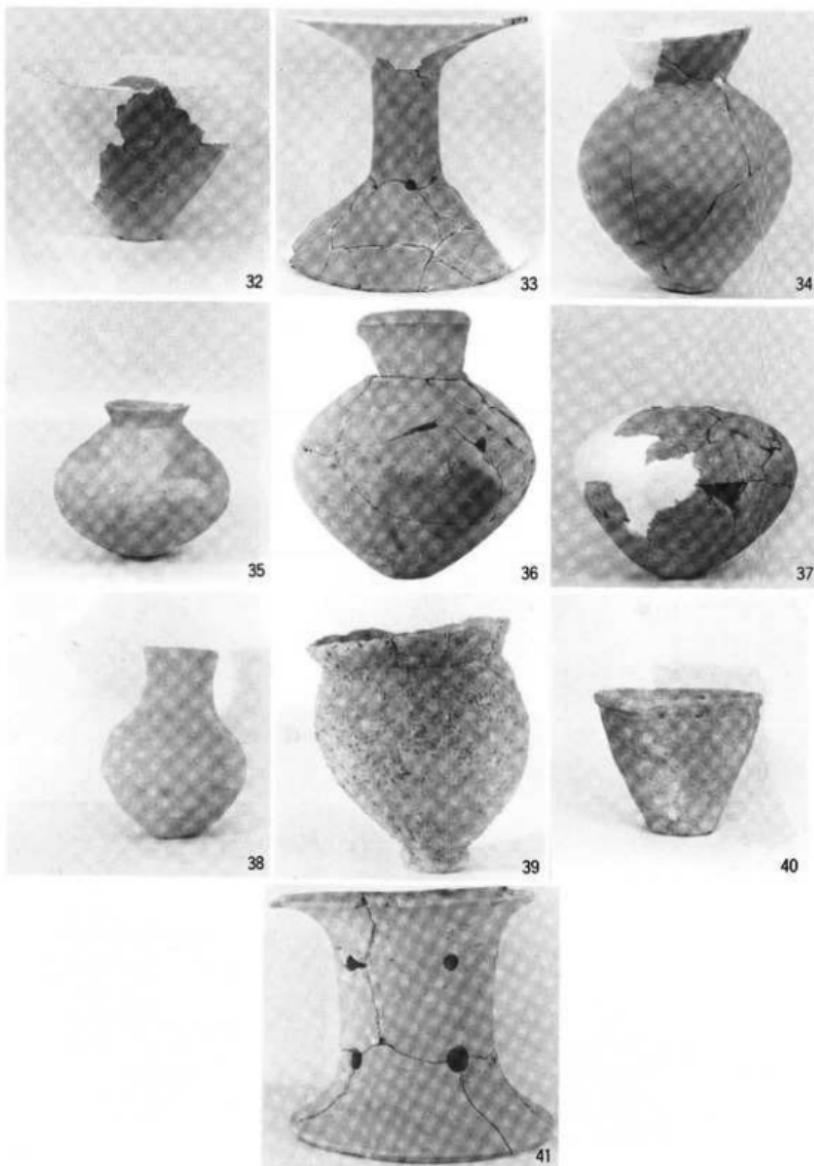


30

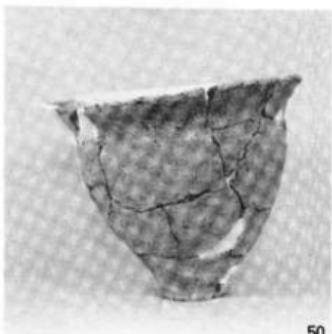
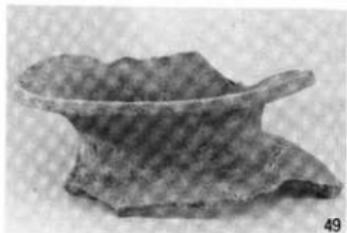
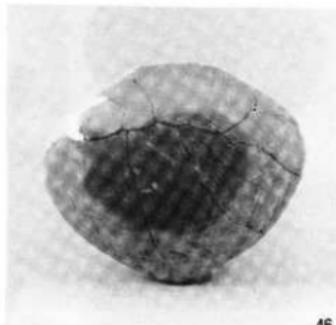


31

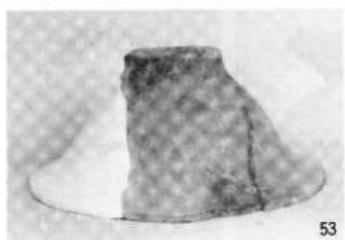
図版 8 C - 4 • D - 5 区出土土器21~31



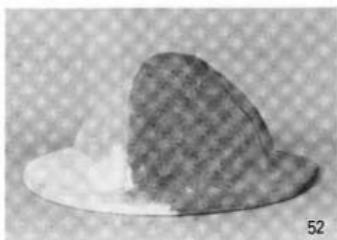
図版 9 C-4・D-5・D-6 出土土器32~41



図版10 C-6区出土土器 (42~50)



53



52



54



55



56



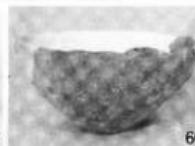
57



58



59



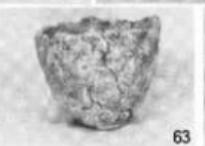
60



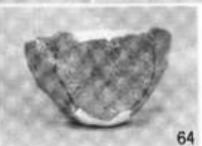
61



62



63



64

図版11 C-6区出土土器 (52~64)



65



66



67



68



69



70



71



72

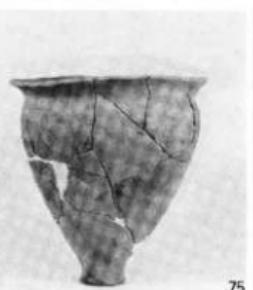


73

図版12 C-7区出土土器 (65~73)



74



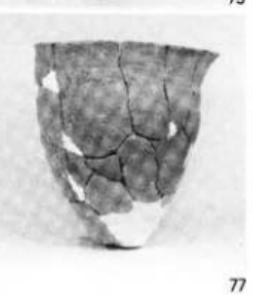
75



76



77



78



79



80



81



82



83

図版13 C-7区出土土器 (74~83)



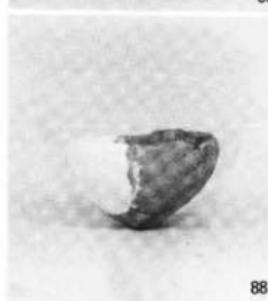
85



86



87



88



89



90



91



92



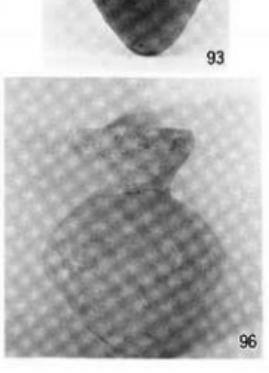
93



94

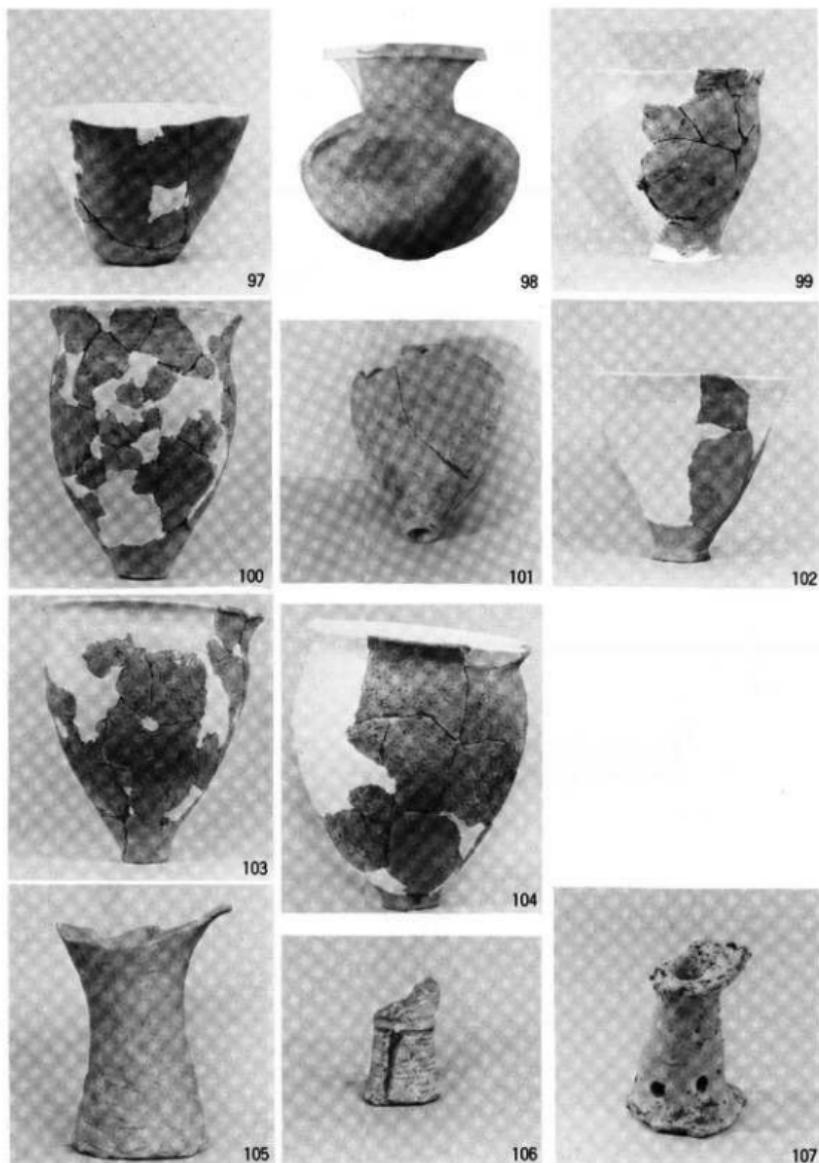


95

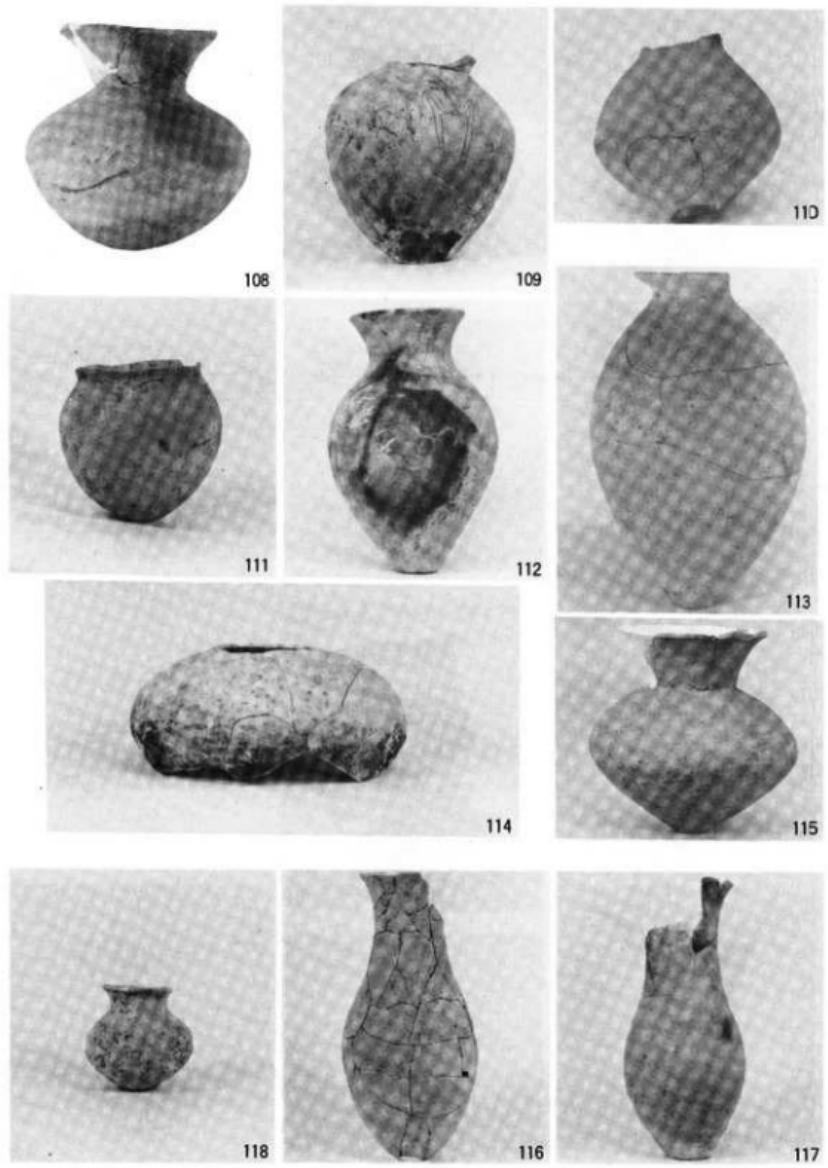


96

図版14 C-7・D-7区出土土器 (84~96)



図版15 D-7・E-7・C-8・C-9区出土土器 (97~107)



図版16 D-8・D-9区出土土器 (108~118)



119



120



122



123



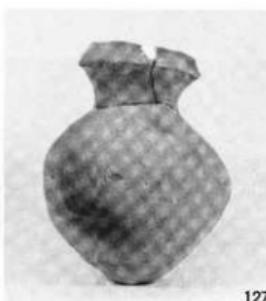
124



125



126



127



128

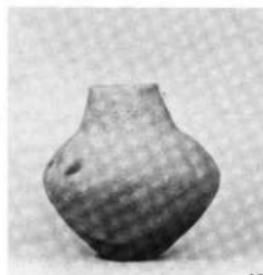
図版17 D-9・D-10・D-11・C-12区出土土器 (119~128)



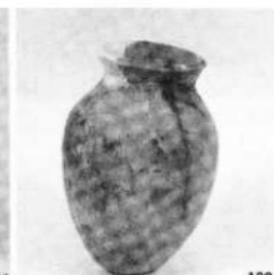
129

130

131



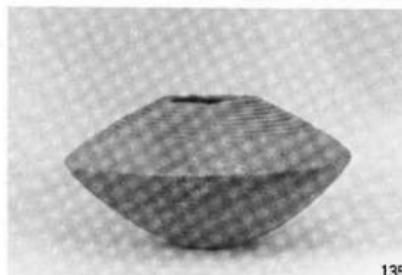
132



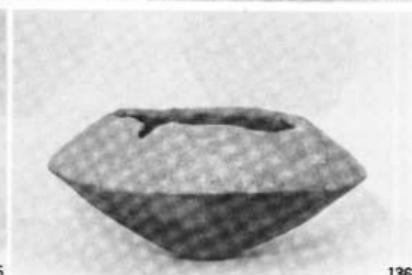
133



134



135



136



137

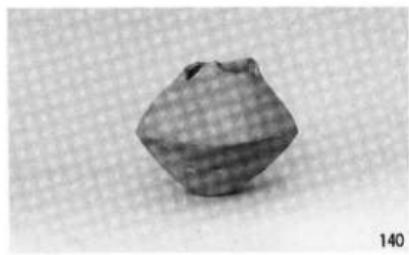


138

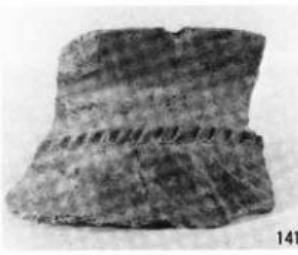


139

圆版18 C—11・D—12・D—13出土土器 (129～139)



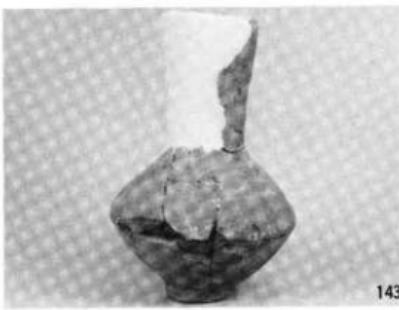
140



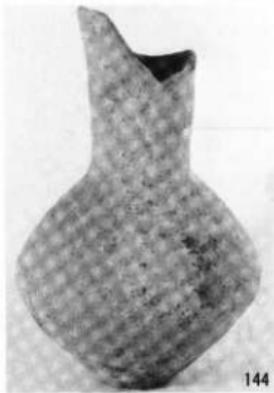
141



142



143



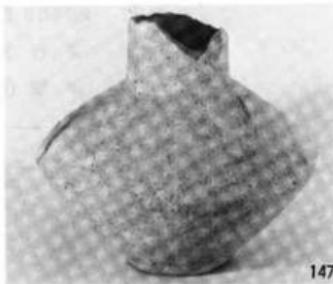
144



145



146



147

図版19 E-11・E-12・E-13・F-11区出土土器 (140~147)

# 中岡遺跡

発行年月日 昭和62年3月31日  
発 行 宮崎市教育委員会  
印 刷 (株)愛文社 印刷所